

輸出國

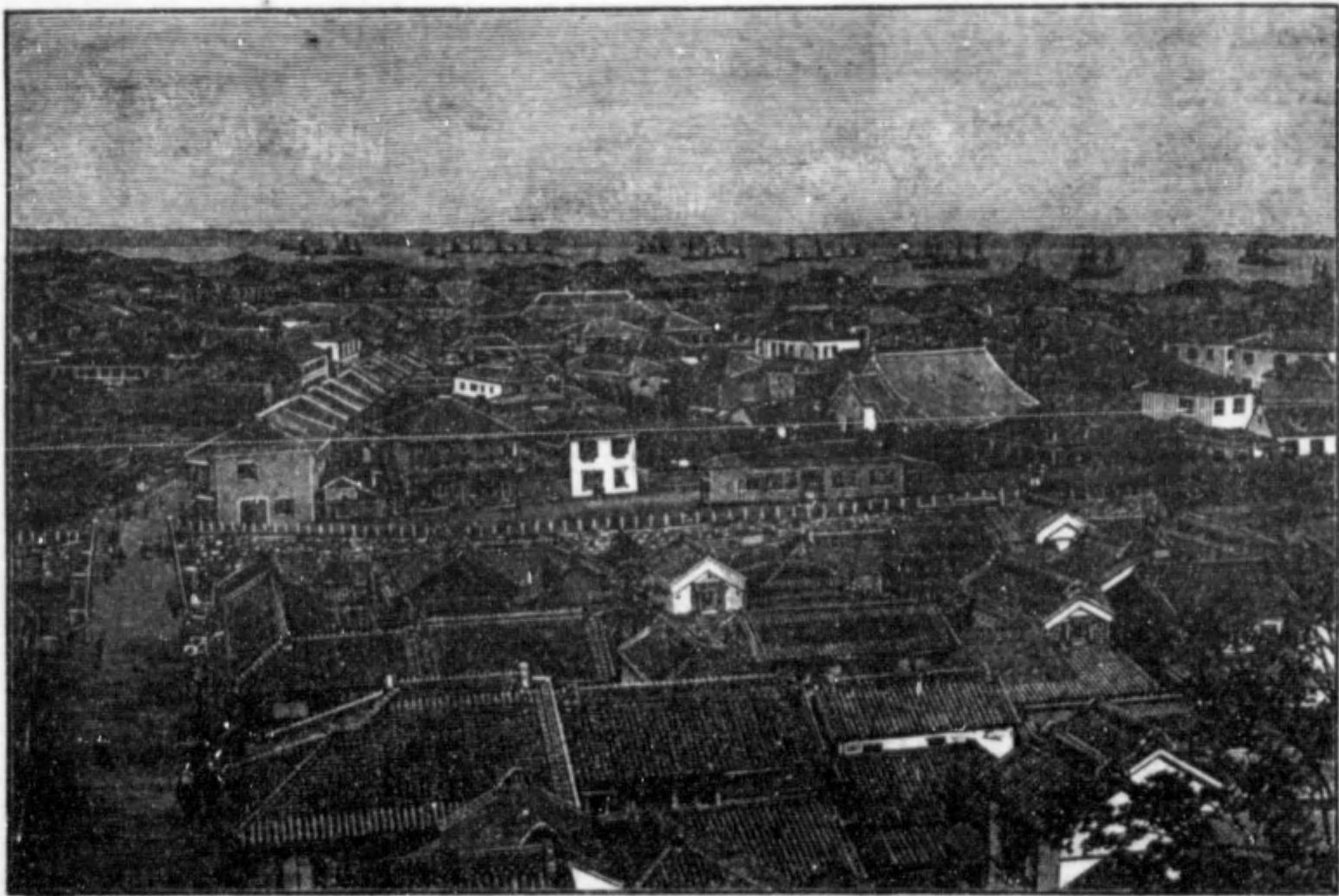
(八)伊太利、(九)獨逸、(十)朝鮮にして、其價格、二千七百七十萬圓、乃至百三十萬圓なり。

輸入國

又我國へ輸入するの最多き國々は、(一)英吉利、(二)支那、(三)印度、(四)英領香港、(五)獨逸、(六)北米合衆國、(七)佛蘭西、(八)朝鮮、(九)魯西亞にして、其價格、二千七百九十萬圓、乃至百八十萬圓なり。

領事

通商國は、互に領事を派遣して、開港場に駐在せしめ、自國の出稼商人を保護し、又商事を監察せしむるを常とす。我國領事の派遣地は、凡そ三十八ヶ所なり。通商外國よりも、大抵各其領事を我國



港濱横

に在留せしむ。

(二十一) 政治

維新前の政治

今より殆んど三十年前までは、日本の政治は、封建政治として、徳川將軍幕府を江戸(東京)に立て、凡そ三百の諸侯國々を分領し、大諸侯は各城寨を構へて、其領地を管轄したり。前段地方各論に、舊城地とあるは、即ち此等諸侯の城郭の所在地なり。

然るに、明治元年、徳川幕府、大政を朝廷に奉還し、茲に帝政古に復し、天皇親しく政治をまろしめすととなり、次て諸大名各藩籍を奉還し、封建の制度全く倒れ、立君政治の名實相適ふととなりたり。此前後に於る、諸般の事變を概稱して、維新の變革とは云ふなり。爾後種々の改革を行ひ、遂に廿二年に憲法を發布し、廿三年始めて國會を召集し、是に於て、立憲政治の形體成れり。

日本の國體

抑も我國は、二千五百五十餘年來、常に一系の皇室を戴き、君臣の分確として、動かすべからず。時々多少の政變なきに非ざりしも、政體は常に立

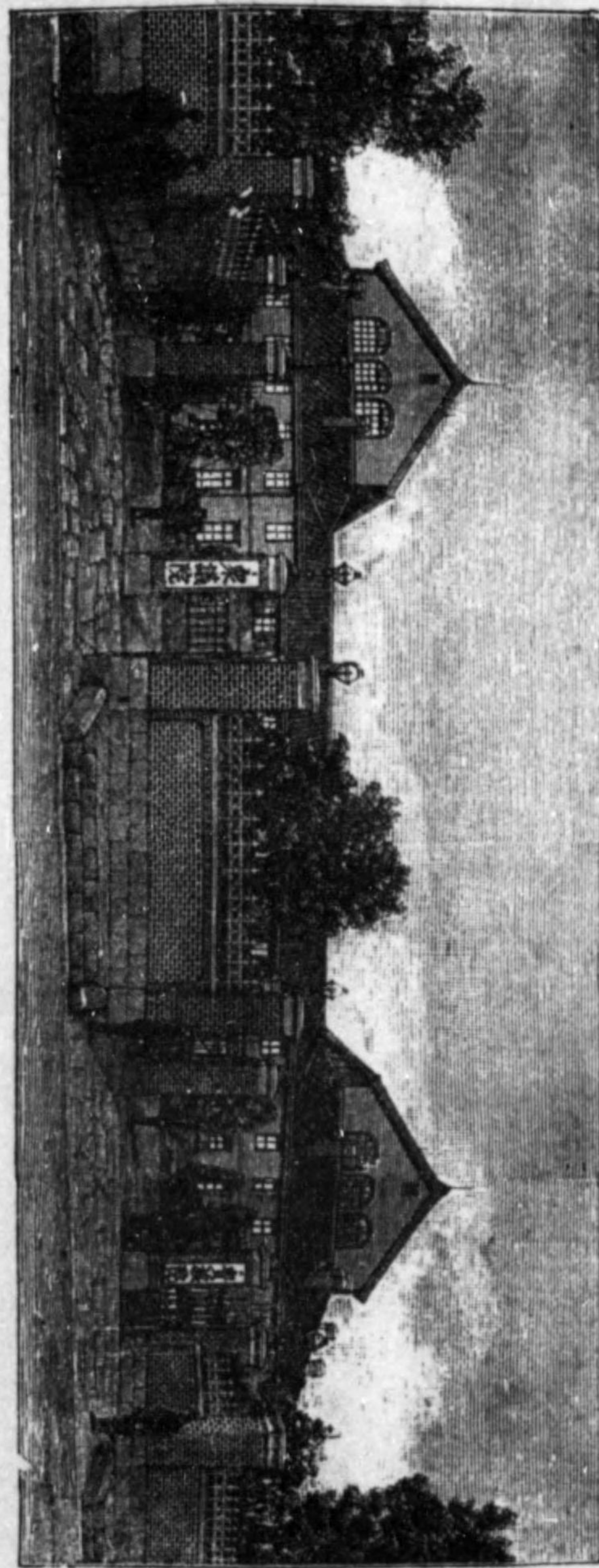
君政にして、國體嘗て易はりしとなく、臣民舉て、皇室に悦服し、朝廷は深く衆庶を撫育したまふ、誠に目出度き國柄にして、世界廣しと雖、斯る類例あるとなし。

統治權

政治は之を分ちて、立法、行政、司法の三大部と爲し、天皇其大權を總攬し給ふ。

立法部

立法部は、帝國議會と稱し、別ちて貴族院、衆議院となす、總て法律は、此兩院の協賛を要す。貴族院の議員は、皇族、有爵者、國家に功勞あり、又は學識



帝國議會の建築

ある勅撰議員、各府縣一名の多額納稅者此四種とし、其數凡そ三百なり、衆議院の議員は、全國に於て、十五圓以上の直接國稅を納むる者の中より、公撰したる代議員にして、其數亦凡そ三百とす。

行政部

行政部は、内閣及外務、大藏、内務、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信の九省より成り、内閣總理大臣を首め、各省の九大臣あり、施政を掌る。又宮内省あり、専ら皇室の事を處理し、國政に干らず、其長官をも大臣と稱す。此外に、樞密院あり、天皇陛下の最高顧問府とす。又會計検査院あり、諸官廳の會計を管督す。

司法部

司法部は、各裁判所より成る、大審院は、最高の法衙とす。控訴院は、全國に七個を置く、東京、大阪、名古屋、廣島、長崎、仙臺、函館とす。各府縣に、各一の地方裁判所を置き、其下に凡そ三百の區裁判所あり。

地方の政治

以上は、先づ全國の大政なり。又地方政務を調理するため、全國を一廳、三府、四十三縣となす、臺灣は未定なり、是れ前に記したり。北海道廳に長官あり、各府縣に知事あり、各其管内を統治す。又府縣には、府縣會あり、各其財政を參議す。廳府縣は、更に小分して、郡、區、市、町、村となし、各其長あり、

政費

議會あり、特に市、町、村は、大抵自治制を布けり。
 一、國政事上の費用は、國民之を分擔するを當然とす。國民の分擔して政府に出す所の者を、租税と稱す。租税の賦課法は、國と時とにより、必らずしも同様ならずと雖、今日我國に於ては、國稅、地方稅の二種とす。其内又種々の區別あり。要するに、國稅は國庫に納れて、全國政務の費用に供し、地方稅は之を地方の政務の費用に充つ。此他區、市、町、村、各別に其費用を人民より徵集す。右諸租稅及費目粗左の如し。

人民の負擔

國稅合計	八千四百二十三萬圓
地方稅合計	一千七百二十四萬圓
國稅、地方稅及區市町村稅總計	一億二千七百三十三萬圓
右の一億二千七百三十萬圓は、即ち全國民の負擔にして、之を總人口に配當すれば、凡壹人に付三圓餘となるなり。又國事のため、一時國債を起すとあり。今日の國債額は、粗左の如し。	
國債總額	一億八千三百九十一萬九千圓
內	
內國債	二億八千五百六十二萬圓
外國債	二百九十五萬七千圓

(三十二) 軍備

第九號地圖參照

現今の兵制

封建時代、即ち殆んど三十年前までは、軍備はすべて舊藩武士(今日の士族)の専ら任する處なりしが、維新後に至り、新に全國兵の主義を採用し、即ち徵兵法に由りて、兵を採るととなれり。故に今日は、帝國臣民にして、滿十七歳より、滿四十歳迄の男子は、總て兵役に服するの義務あり。兵役は分て常備兵役、後備兵役、國民兵役の三種とし、常備兵役は、更に之を現役と、豫備役の二に區別す、概左圖の如し。



故兵部大輔村益次郎像

滿二十歳の壯丁

常備兵役

現役	海軍四年
豫備役	陸軍三年

陸軍兵種

後備兵役……………五年間常備兵役を終りたる者之に服す
 國民兵役……………滿十七歳より四十歳迄にして常備兵役及後備兵役外の者之に服す

陸軍 陸軍の兵種は、歩兵、騎兵、砲兵、工兵、輜重兵、屯田兵、憲兵、軍樂隊、等とし、將官、佐官、尉官、等將校下士、兵卒に至るまで、上下尊卑の區別、極めて嚴なり。

陸軍軍備

全國を七師管に分ち、毎師管に、一師團の兵を置く。一師管を更に分ちて、二旅管となし、毎旅管に、一旅團の兵を備ふ。又一旅管を更に分ちて、四大隊區とし、毎區に若干の兵あり。扱平時、一師團の兵員は、凡八千餘、乃至九千餘とす。又七師團の外に、近衛師團あり、皇室を守護し、警備隊あり、偏境の島地を警備す。

陸軍管區及師團配置圖

師管		師團		師團司令部		旅管		旅團		旅團司令部	
第一師管	第二師管	第一師團	第二師團	東京	仙臺	第一旅管	第二旅管	第一旅團	第二旅團	東京	仙臺
第三師管	第四師管	第三師團	第四師團	名古屋	札幌	第三旅管	第四旅管	第三旅團	第四旅團	青森	札幌

師管		師團		師團司令部		旅管		旅團		旅團司令部	
第三師管	第四師管	第三師團	第四師團	名古屋	大阪	第五旅管	第六旅管	第五旅團	第六旅團	名古屋	金澤
第五師管	第六師管	第五師團	第六師團	廣島	熊本	第七旅管	第八旅管	第七旅團	第八旅團	大坂	姫路
第七師管	第七師團	第七師團	第七師團	札幌	札幌	第九旅管	第十旅管	第九旅團	第十旅團	廣島	丸龜
						第十一旅管	第十二旅管	第十一旅團	第十二旅團	熊本	小倉
						第十三旅管	第十四旅管	第十三旅團	第十四旅團	札幌	札幌
										根室	根室

近衛師團……………東京

警備隊……………小笠原島、佐渡、隱岐、大島、沖繩、五島、對馬

海岸の要所には、砲臺あり。例せば、東京灣防禦砲臺、橫須賀軍港防禦砲臺、紀淡海峽防禦砲臺、下關海峽防禦砲臺、對馬淺海灣防禦砲臺の如き是れなり。

此外、陸軍に、參謀部、監軍部あり、又陸軍大學校、士官學校、幼年學校、戸山學校、乘馬學校、教導團、病院(十九)等あり。現今陸軍軍人は、凡二十七万三千餘なり。

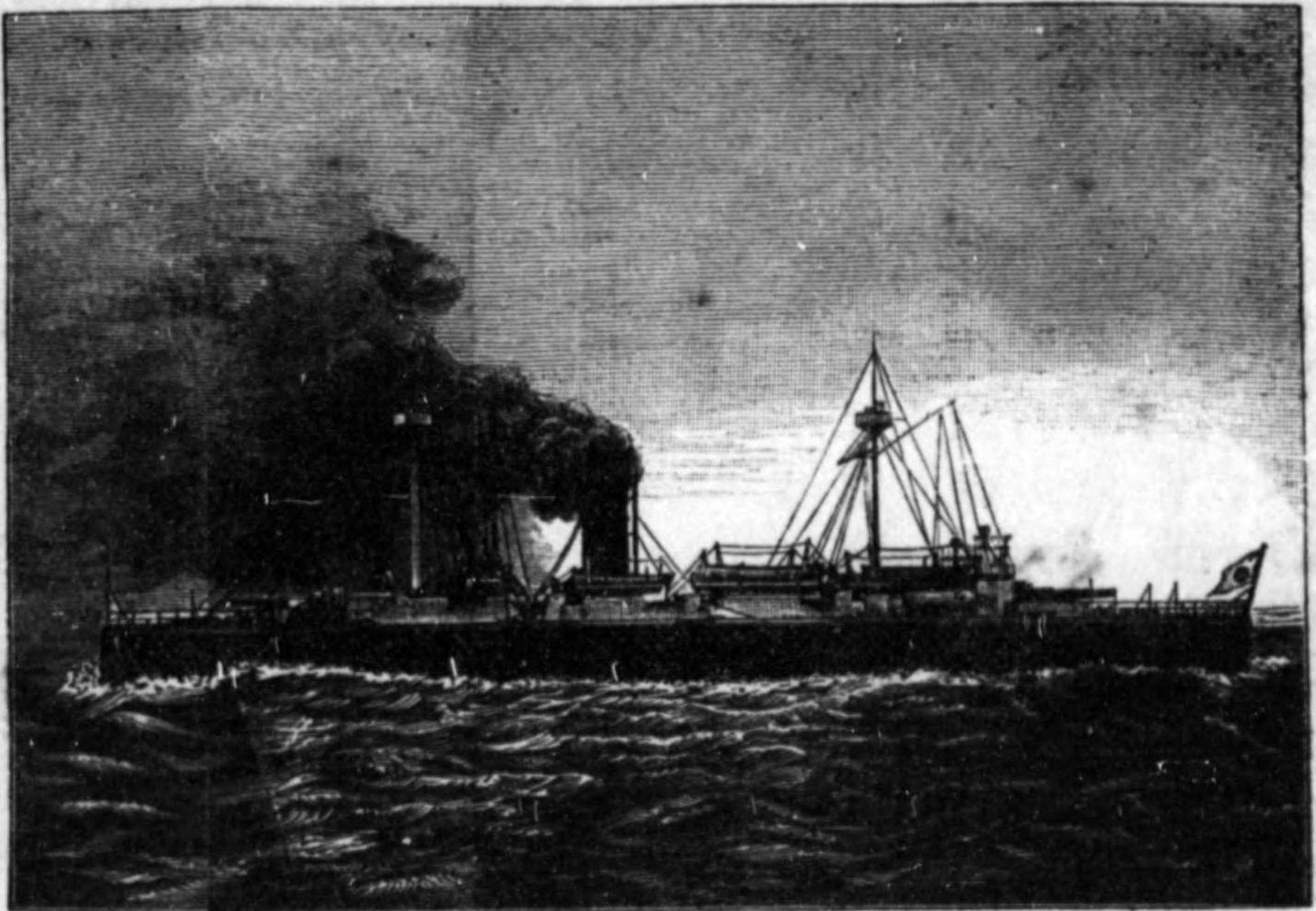
陸軍人員

砲臺

海軍區

海軍

次に海軍に於ては、海岸及海部を分ち、五海軍區となし、各鎮守府を置く、其區分左の如し、第九號地圖參照



軍艦

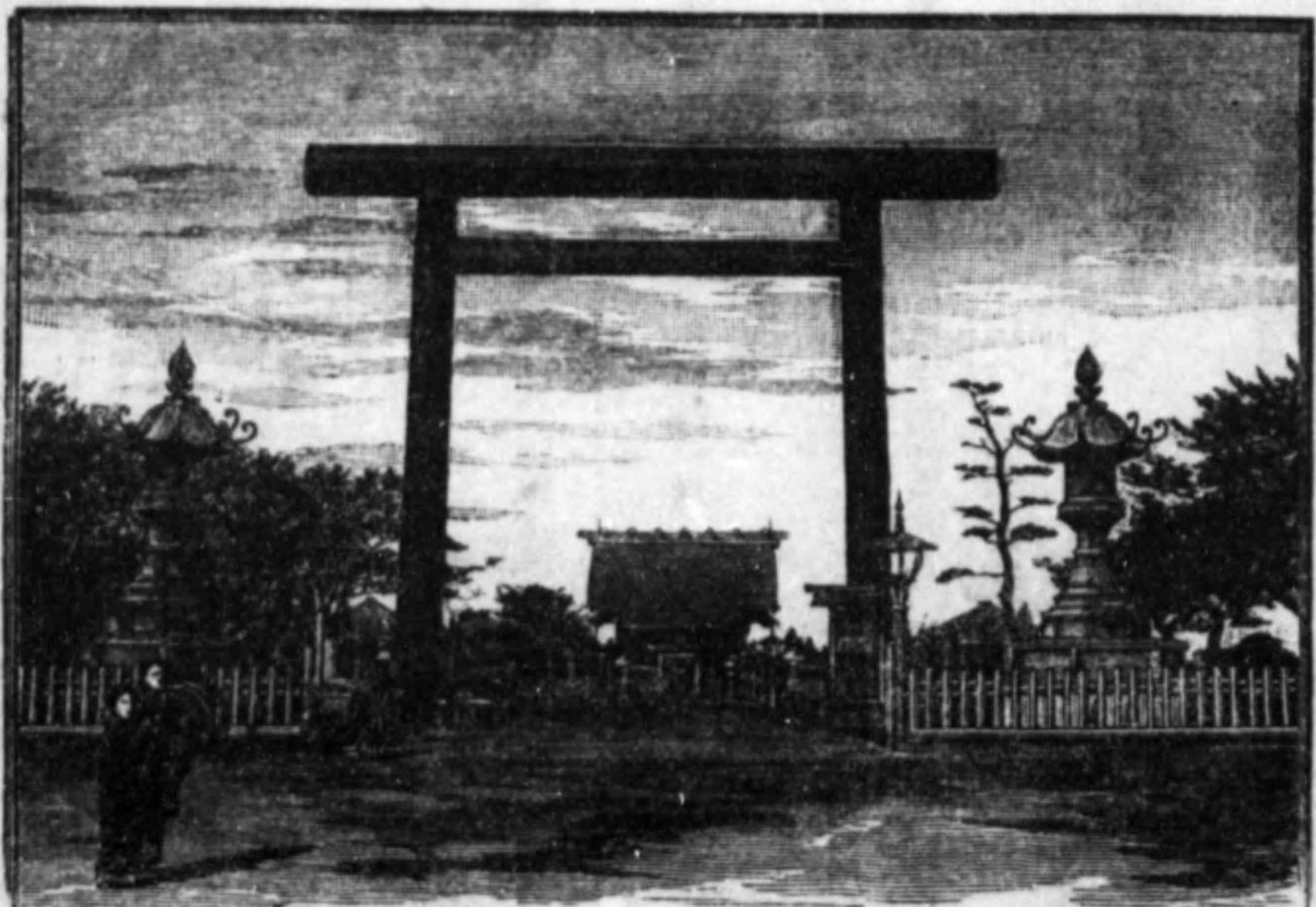
鎮遠號にして、其噸數七千三百三十五噸とす。

現今は、帝國軍艦の數五十三隻、此噸數八万二千餘にして、又製造中の軍艦四隻あり。此四隻中の二艦は、富士、八島と號し、各噸數一万二千數百、長さ三百七十餘呎にして、帝國軍艦中、最大なり。之に次くは、清國より收容したる

區	軍	港	所	管	海岸 延長 里程
第一海軍區	相模國	橫須賀港	橫須賀鎮守府	府	一、〇五七
第二海軍區	安藝國	吳港	吳鎮守府	府	二、〇六七
第三海軍區	肥前國	佐世保港	佐世保鎮守府	府	一、四九七
第四海軍區	丹後國	舞鶴港	舞鶴鎮守府	府	一、〇五五
第五海軍區	膽振國	室蘭港	室蘭鎮守府	府	二、二七六

海軍人員

海軍軍人の總數は、凡一万四千八百餘にして、將官、佐官、尉官等の官名、粗陸軍と同じ、但、中佐と、中尉の官名を欠くのみ。又海軍には、軍令部、水路部、橫須賀造船所、小野濱造船所あり、又海軍大學校、同兵學校、機關學校、病院等の諸官衙あり。



社 魂 招

新地理學

日本之部尾

新地理學附錄

畿内、八道、八十五國、及郡名

畿内

山城 葛野、愛宕、乙訓、紀伊、宇治、久世、綴喜、相樂
 大和 添上、添下、平郡、山邊、宇陀、城上、城下、十市、廣瀬、高市、葛上、葛下、忍海、宇智、吉野
 河内 交野、讀良、茨田、若江、河内、高安、大縣、安宿、志紀、澁川、丹北、丹南、八上、古市、石川、錦部
 和泉 大島、和泉、泉南、日根
 攝津 東成、西成、住吉、島上、島下、豐島、能勢、河邊、武庫、菟原、八部、有馬

東海道

伊賀 阿拜、山田、伊賀、名張
 伊勢 桑名、員辨、朝明、三重、河曲、鈴鹿、鹿野、安濃、一志、飯高、飯野、多氣、度會
 志摩 答志、英虞
 尾張 愛知、知多、東春日井、西春日井、丹羽、栗栗、中島、海東、海西
 三河 碧海、額田、東加茂、西加茂、幡豆、寶飯、南設樂、北設樂、八

遠江 名、温美、濱名、敷知、引佐、鹽玉、長上、豐田、磐田、周智、山名、佐野、城東、榛原

駿河 志多、益津、有渡、安原、富土、駿東、東山梨、西山梨、東八代、西八代、南巨摩、中巨摩、北巨摩、南都留、北都留

伊豆 加茂、那賀、君澤、田方、三浦、鎌倉、高坐、大住、淘綾、足柄ノ上、足柄ノ下、愛甲、津久井

武藏 南豐島、北豐島、南葛飾、北葛飾、南足立、北足立、南埼玉、北埼玉、新座、荏原、入間、高麗、横見、比企、大里、男衾、幡羅、榛澤、見玉、加美、那賀、秩父、東多摩、西多摩、南多摩、北多摩、橋本、都筑、久良岐

安房 平、安房、長狹、朝夷、上總 天羽、周准、望陀、市原、夷隅、埴生、長柄、山邊、武射

下總 千葉、東葛飾、西葛飾、中葛飾、猿島、結城、豐田、岡田、南相馬、北相馬、印旛、下埴生、香取、匝瑳、海上

常陸 筑波、河内、信太、新治、行方、鹿島、眞壁、東茨城、西茨城、那珂、久慈、多賀

近江 滋賀、栗太、野洲、甲賀、蒲生、神崎、愛知、犬上、坂田、東淺

東山道

羽前 南村山、北村山、東村山、西村山、最上、西田川、東田川、西置賜、東置賜、南置賜
 羽後 飽海、由利、雄勝、平鹿、仙北、河邊、南秋田、北秋田、山本

北陸道

若狹 三方、遠敷、大飯
 越前 足羽、吉田、坂井、大野、南條、今立、丹生、敦賀
 加賀 江沼、能美、石川、河北
 能登 羽咋、鹿島、鳳至、珠洲
 越中 上新川、下新川、婦負、射水、礪波
 越後 北蒲原、中蒲原、西蒲原、南蒲原、東蒲原、三島、古志、北魚沼、中魚沼、南魚沼、刈羽、東頸城、中頸城、西頸城、岩船、佐渡、雜太、羽茂、加茂

山陰道

丹波 南桑田、北桑田、船井、何鹿、多紀、氷上、天田
 丹後 加佐、與佐、中、竹野、熊野
 但馬 城崎、美含、出石、氣多、養父、朝來、七美、二方
 因幡 邑美、法美、岩井、八上、八東、智頭、高草、氣多
 伯耆 河村、久米、八橋、汗入、會見、日野
 出雲 島根、秋鹿、意宇、能義、仁多、大原、出雲、楯縫、神門、飯石
 石見 瀨戶、安濃、邑智、那賀、美濃、鹿足

美濃 井、西淺井、伊香、高島、厚見、各務、方縣、羽栗、中島、海西、下石津、多藝、上石津、不破、安八、大野、池田、本巢、席田、山縣、武備、郡上、加茂、可見、土岐、惠那
 飛驒 大野、益田、吉城、南佐久、北佐久、小縣、諏訪、上伊那、下伊那、東筑摩、西筑摩、南安曇、北安曇、更級、埴科、上高井、下高井、上水内、下水内
 上野 東群馬、西群馬、片岡、多胡、綠野、南甘樂、北甘樂、碓氷、吾妻、利根、北勢多、南勢多、那波、佐位、新田、山田、邑樂
 下野 河内、上都賀、下都賀、芳賀、鹽谷、那須、安蘇、足利、梁田
 磐城 東白川、西白川、石川、田村、菊多、磐前、磐城、檜葉、標葉、行方、宇多、伊具、刈田、互理
 岩代 信夫、伊達、安達、安積、岩瀬、南會津、北會津、耶麻、河沼、大沼
 陸前 柴田、黒川、名取、宮城、加美、玉造、栗原、志田、遠田、桃生、牡鹿、登米、本吉、氣仙
 陸中 南岩手、北岩手、紫波、稗貫、東和賀、西和賀、膽澤、江刺、西磐井、東磐井、西閉伊、南閉伊、東閉伊、中閉伊、北閉伊、南九戸、北九戸、鹿角
 陸奥 東津輕、西津輕、中津輕、南津輕、北津輕、上北、下北、三戸、二戸

畿内八道十五國及郡名

隱岐 周吉、禮地、海士、知夫

山陽道

播磨 明石、美囊、加東、多可、加西、加古、印南、飾東、飾西、神東、神西、揖東、揖西、赤穂、佐用、安粟
美作 眞島、大庭、西々條、西北條、東南條、東北條、勝北、吉野、英田、勝南、久米南條、久米北條

備前 御野、津高、赤阪、磐梨、和氣、邑久、上道、兒島
備中 都宇、窪屋、賀陽、下道、淺口、小田、後月、川上、上房、阿賀、哲多

備後 深津、安那、神石、沼隈、品治、蘆田、御調、世羅、甲奴、三溪、三上、奴可、惠蘇、三次
安藝 安藝、佐伯、沼田、高宮、山縣、高田、賀茂、豊田
周防 大島、玖珂、熊毛、都濃、佐波、吉敷
長門 厚狹、豊浦、美禰、大津、阿武、見島

南海道

紀伊 名草、海部、那賀、伊都、有田、日高、西牟婁、東牟婁、南牟婁、北牟婁
淡路 津名、三原
阿波 名東、勝浦、那賀、海部、名西、板野、阿波、麻植、美馬、三好
讃岐 香川、山田、小豆、三木、寒川、大内、阿野、鵜多、那珂、多度、

伊豫 三野、豊田
温泉、久米、和氣、風早、野間、越智、桑村、周布、新居、宇摩、伊豫、下浮穴、上浮穴、喜多、西宇和、東宇和、北宇和、南宇和
土佐 安藝、香美、長岡、土佐、吾川、高岡、幡多

西海道

筑前 糟谷、宗像、鞍手、嘉麻、穂波、上座、下座、夜須、那珂、御笠、席田、怡土、志摩、早良、遠賀
筑後 御井、御原、山本、三潞、上妻、下妻、生葉、竹野、山門、三池、企救、田川、京都、仲津、錦城、上毛、下毛、宇佐
豊後 西國東、東國東、速見、大分、北海部、南海部、大野、直入、玖珠、日田
肥前 西彼杵、東彼杵、北高麗、南高麗、北松浦、南松浦、佐賀、神崎、基肄、養父、三根、小城、東松浦、西松浦、杵島、藤津
肥後 飽田、託麻、宇土、玉名、山鹿、山本、菊池、合志、阿蘇、上益城、下益城、八代、葦北、球磨、天草
日向 宮崎、北那珂、南那珂、北諸縣、西諸縣、東諸縣、南諸縣、兒湯、東臼杵、西臼杵
大隅 菱刈、始良、桑原、東贈喚、西贈喚、肝付、南大隅、北大隅、熊毛、馱謨、大島
薩摩 鹿兒島、谷山、給黎、揖宿、穎娃、川邊、日置、阿多、高城、南

壹岐 伊佐、薩摩、出水、北伊佐、甌島
對馬 壹岐、石田
琉球 下縣、上縣

北海道

渡島 龜田、上磯、茅部、松前、檜山、爾志
後志 久遠、奥尻、太櫓、瀬棚、壽都、島牧、歌棄、磯谷、小樽、高島、忍路、余市、古平、美園、積丹、古宇、岩内
釧路 山、越、室蘭、虻田、有珠、幌別、白老、勇拂、千歲
日高 沙流、新冠、静内、浦河、襟似、幌源、三石
石狩 札幌、空知、夕張、樺戸、雨龍、上川、石狩、厚田、濱益
天鹽 増毛、留萌、苦前、天鹽、中川、上川
北見 宗谷、枝幸、利尻、禮文、網走、常呂、斜里、紋別
十勝 廣尾、當麻、中川、十勝、河西、河東、上川
釧路 厚岸、釧路、白糠、上川、阿寒、足寄
根室 根室、花咲、野付、標津、目梨
千島 國後、擇捉、振別、紗那、基取、得撫、新知、占守、色丹

東京日本橋ヨリ廳、府縣元標ニ至ル里程

京都	一三二里	山形	九五里
大阪	一四四里	秋田	一五二里
神奈川	八里	井川	一三七里
兵庫	一五〇里	石川	一五九里
長崎	三四四里	富山	一七五里
新潟	九〇九里	山根	一八四里
埼玉	六里	島根	二二二里
千葉	一〇里	廣島	一八六里
茨城	二九里	山口	二二二里
群馬	二八里	和歌山	一六六里
栃木	二七里	淡路	一七八里
群馬	二七里	徳島	一七七里
愛知	一四〇里	香川	二〇七里
三重	一一三三	高知	二二七三
奈良	九五五	高知	二二七三
岐阜	四六六	福岡	二三四里
長野	四六六	大分	三〇三里
宮城	二八里	佐賀	三二七三
福島	一〇四里	熊本	三三四里
岩手	七二里	鹿兒島	三六八里
青森	一四〇里	鹿兒島	三八一里
仙臺	一四〇里	鹿兒島	三七四里
仙臺	一四〇里	鹿兒島	二七六里

畿内八道十五國及郡名

百九十一

●各港間航路里程

高知	宇和島	佐賀關	別府	三津	多度津	神戸	八戸	山田	荻ノ濱	神戶	半田	下田	浦賀	函館	宮古	釜石	石濱	四日市	清水	熱海	横須賀	横濱	
一四二	二二二	二〇二	二一四	一四七	八二	四三六	三六〇	二八六	三四七	一九一	七四	五二九	三七七	三五三	二八三	二〇〇	一一三	五四	一二				
青森	函館	竹敷	嚴原	玉ノ浦	鹿見島	百貫	福江	大川	島原	長崎	赤間關	廣島	岡山	須崎	徳島	八幡濱	大分	長濱	今治	三田尻	尾道	清水	
五九	一一	二〇六	一〇三	一六二	七二	五二	九二	六六	二四〇	一五五	六五	一五二	五一	二一六	二二二	一六五	一一〇	一一三	一〇八	一七六			
伊方里	唐津	小樽	土崎	新潟	伏木	佐世保	呼子	博多	赤間關	父島	樫立	新島	横須賀	波浮	浦賀	横濱	東京	根室	森室	大湊	室蘭	野邊地	
九九	七二	八二二	五八七	四九六	四六三	二〇三	一一一	七一	六〇	五三一	一六五	六八	二五〇	七〇	三〇	一九	二九五	七六	六七	七九	六三		
那覇	石垣	名瀬	鹿見島	油津	佐伯	鹿見島	細島	白杵	佐賀關	赤間關	三田尻	上ノ關	廣島	三津	岡山	尾道	多度津	函館	酒田	直江津	敦賀	長崎	
三七三	六一五	二〇二	一一九	二二八	二一六	六六	一六	九二	五九	三〇	三五	三一	三〇	六八九	五四七	四三三	三二七	一四二					

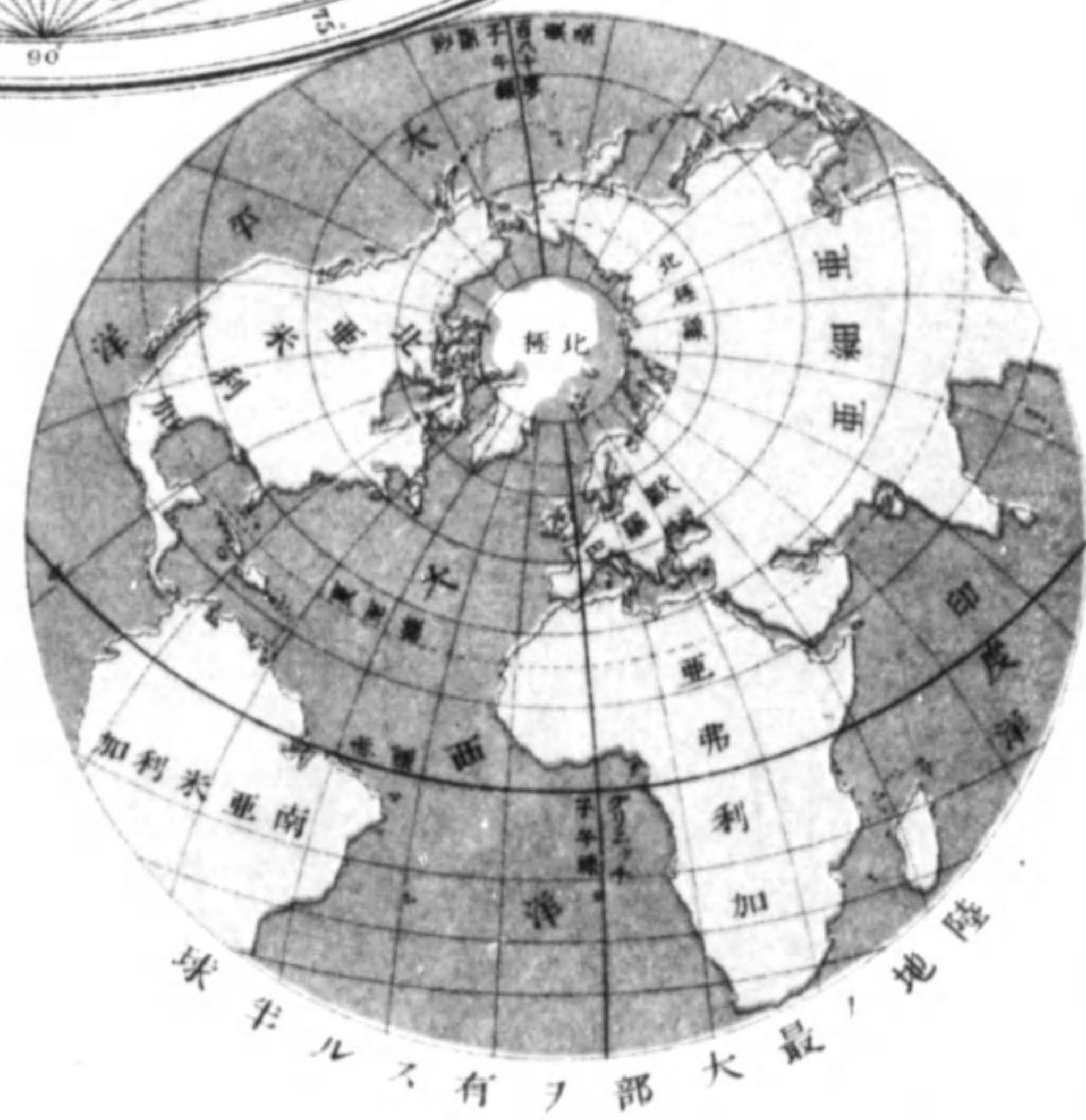
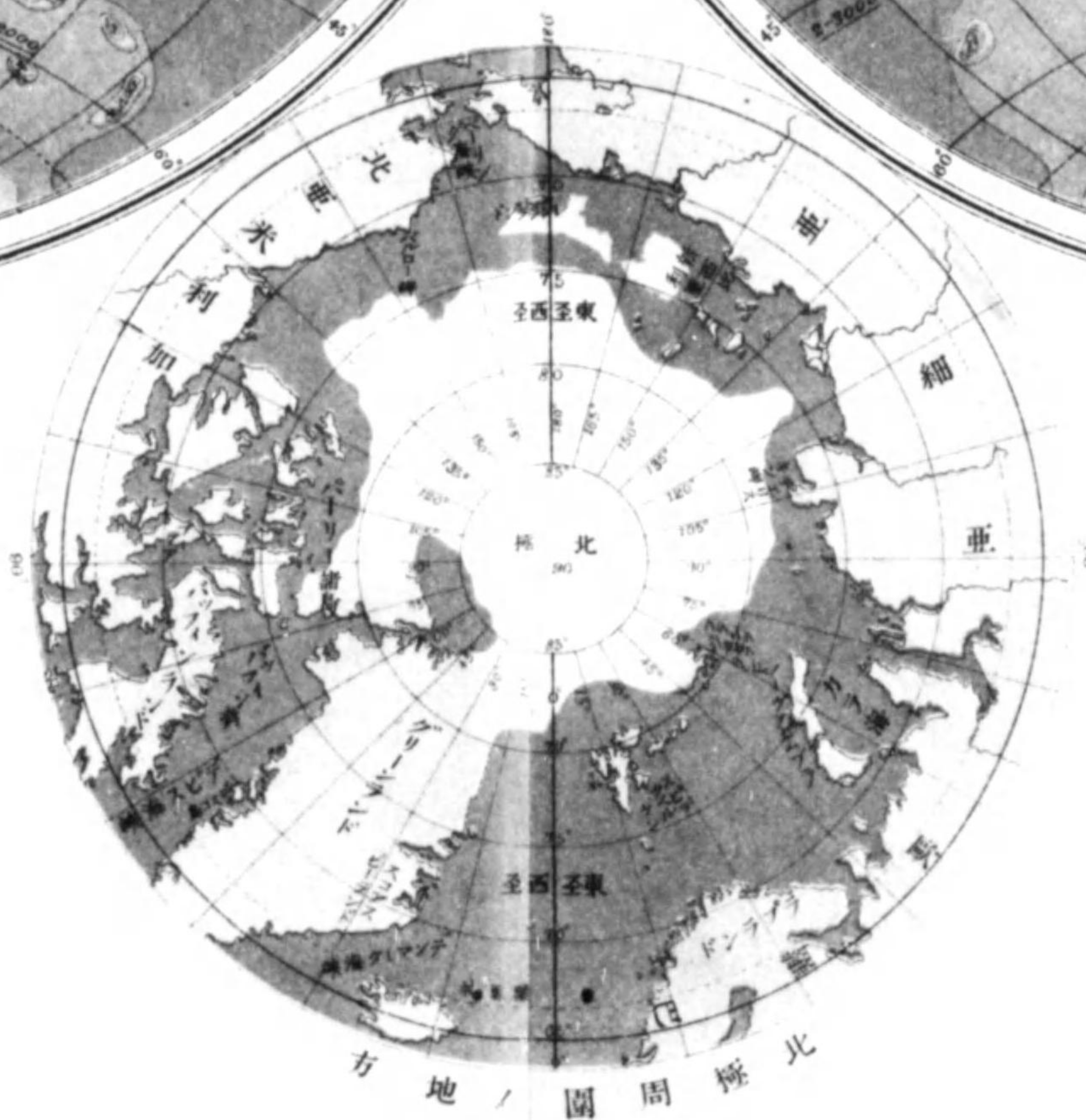
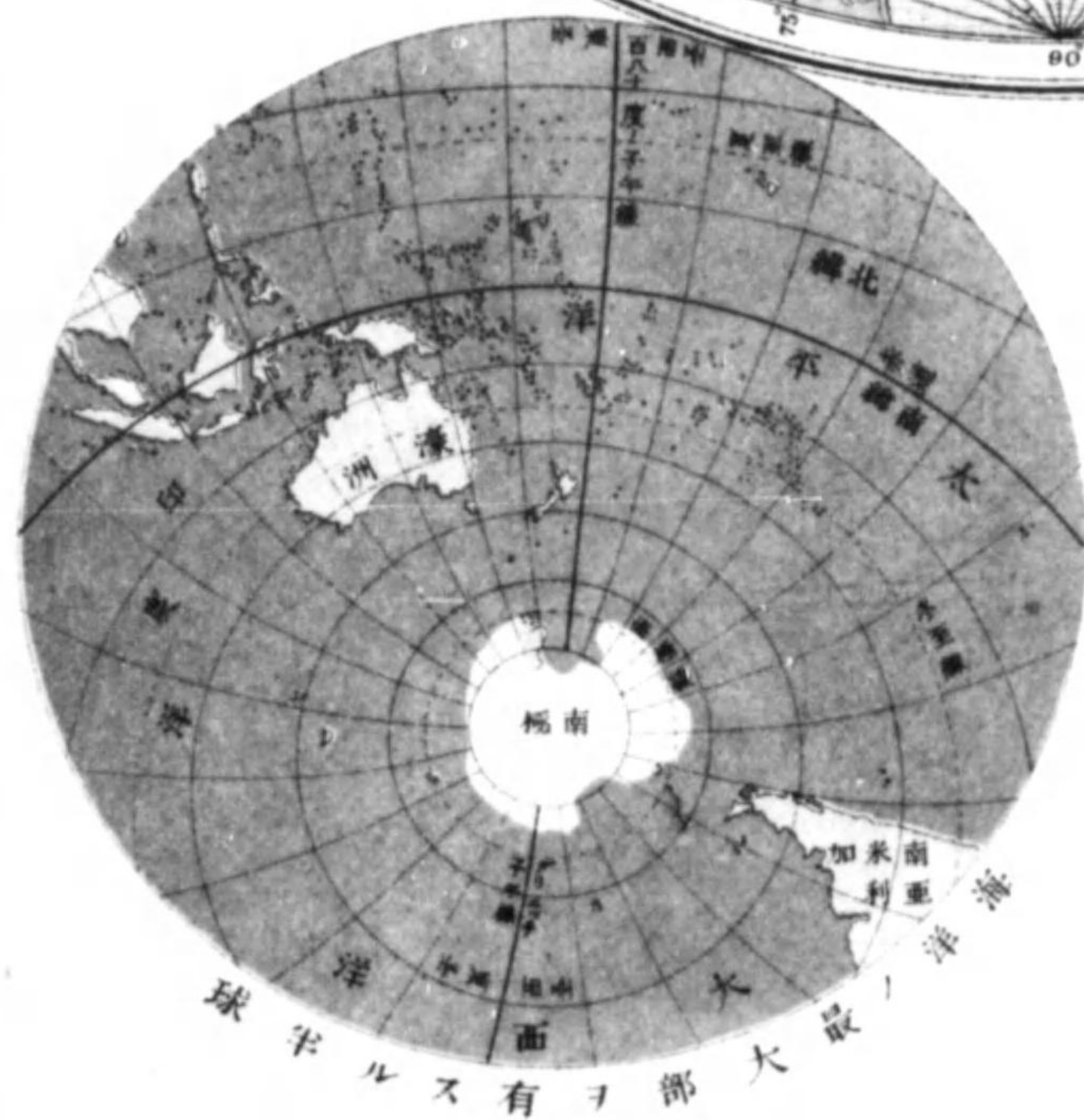
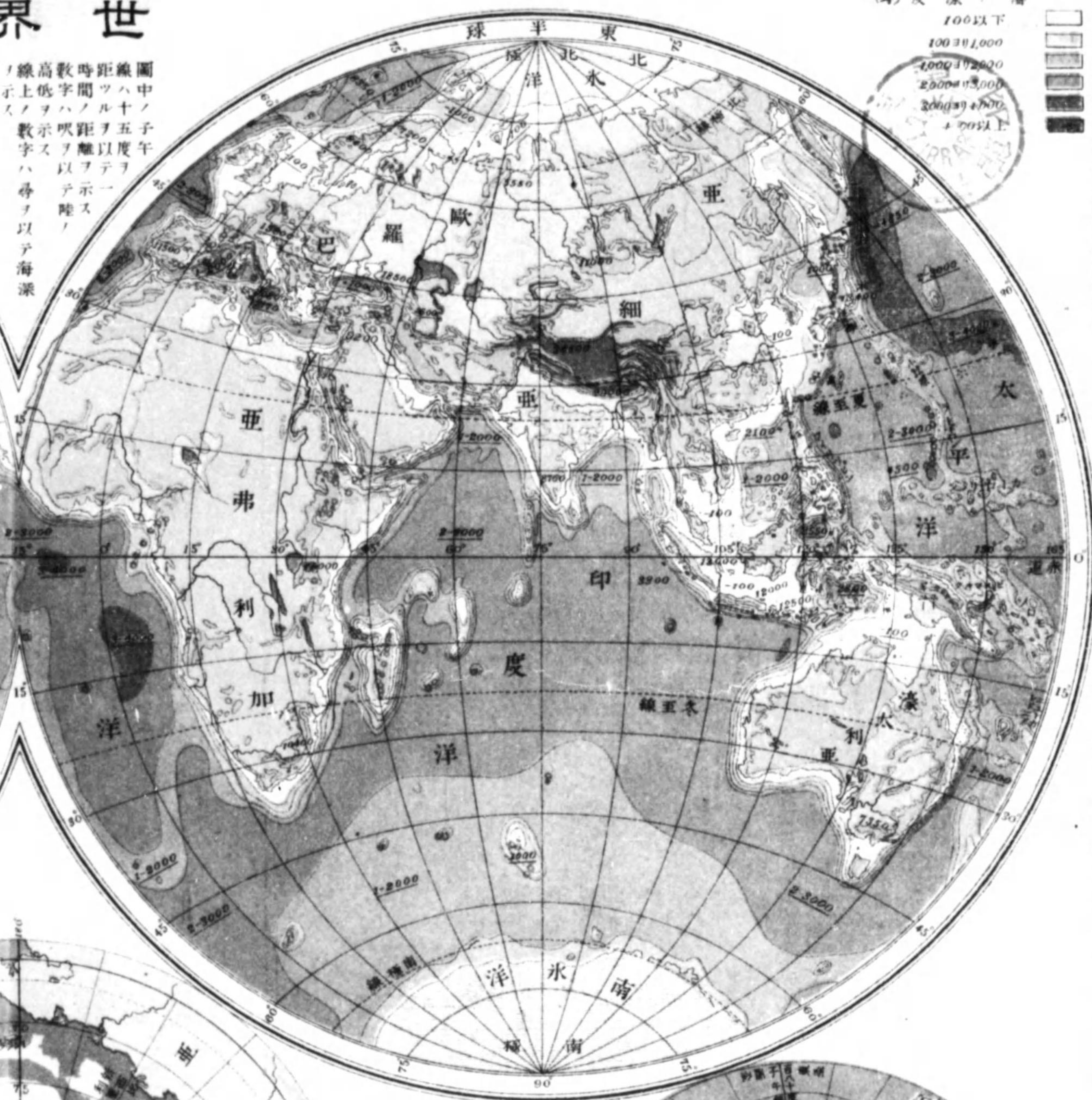
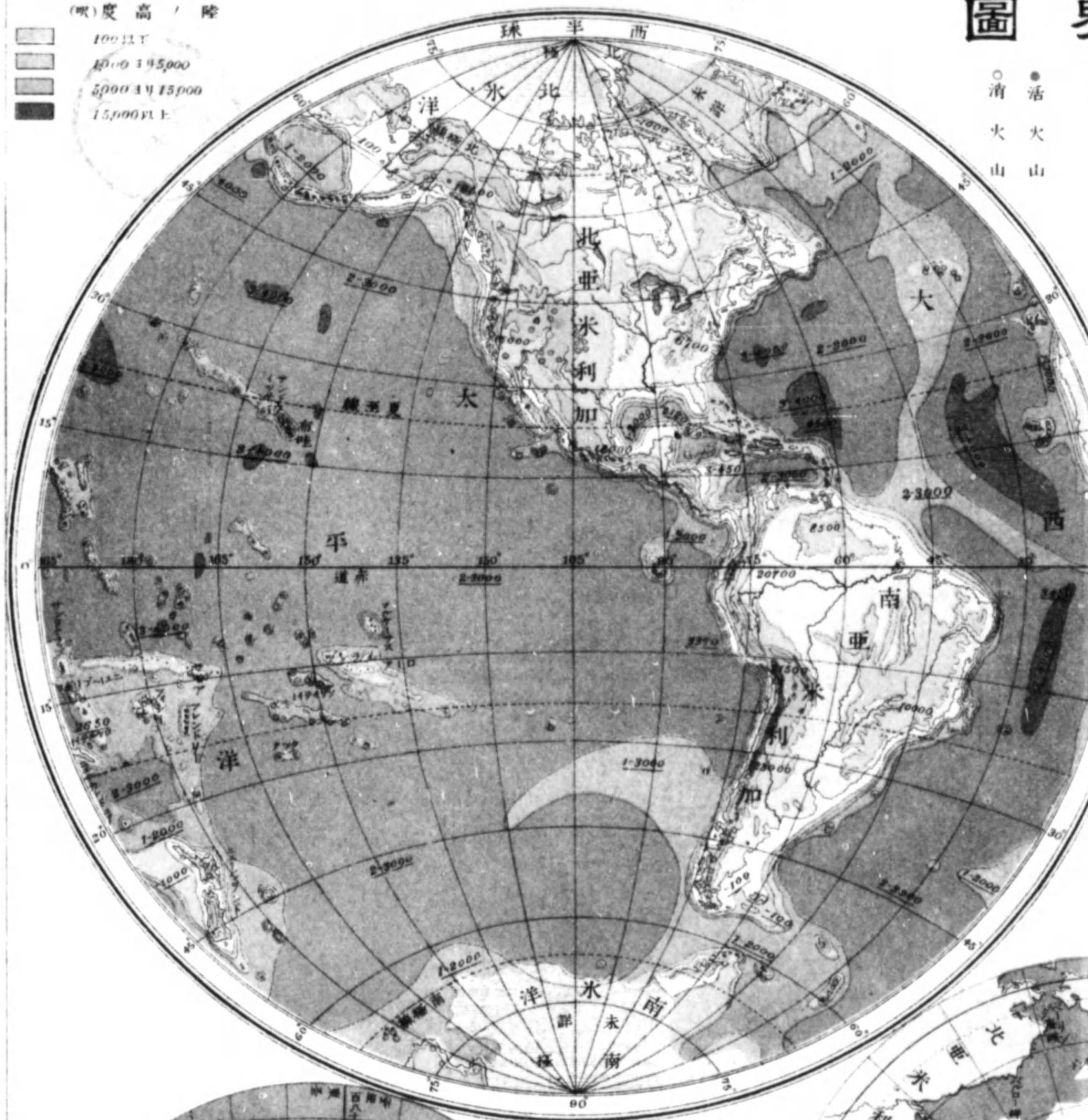
(一哩ハ十六町五十八間三尺)

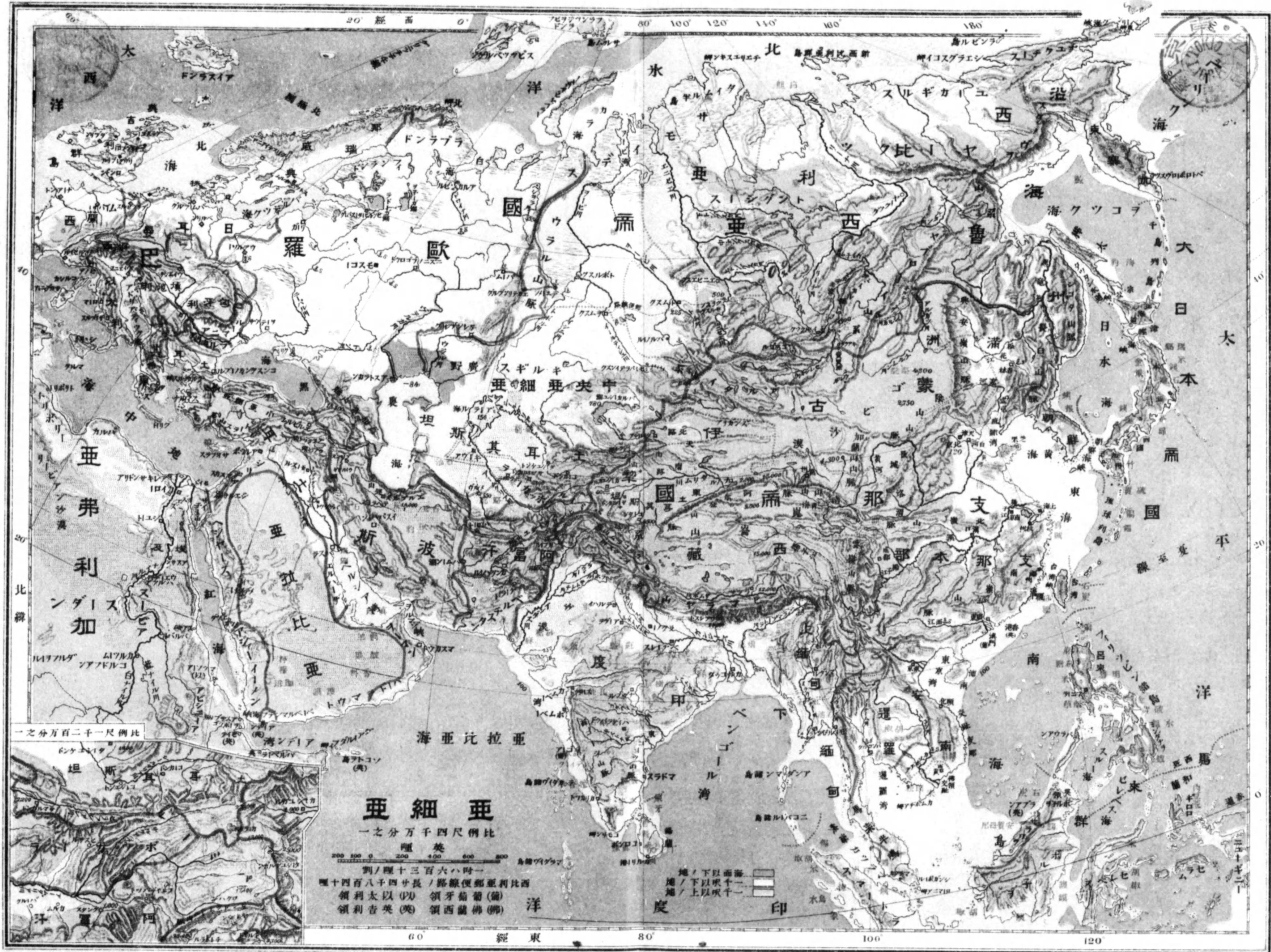
世界圖

(陸) 高度 / 陸
 100以下
 100 300 500
 1000 1500 2000
 2500 3000 3500
 4000 4500 5000

(海) 深度 / 海
 100以下
 100 300 500
 1000 1500 2000
 2500 3000 3500
 4000 4500 5000

○ 活火山
 ● 死火山
 線高時距離圖
 上低數間ツハ中
 示マハハル五午
 数字ハ吹ヲ以テ
 示スハ海深ヲ示
 数字ハ海深ヲ示
 示スハ海深ヲ示





一之分万百二千一尺例比



亞細亞

一之分万四千四尺例比

哩 英
 一吋 / 哩十三百六十八吋
 哩十四百八千四百廿長 / 路線便郵里利比西
 領利太以 (印) 領牙倫葡 (葡)
 領利吉英 (英) 領西蘭佛 (佛)

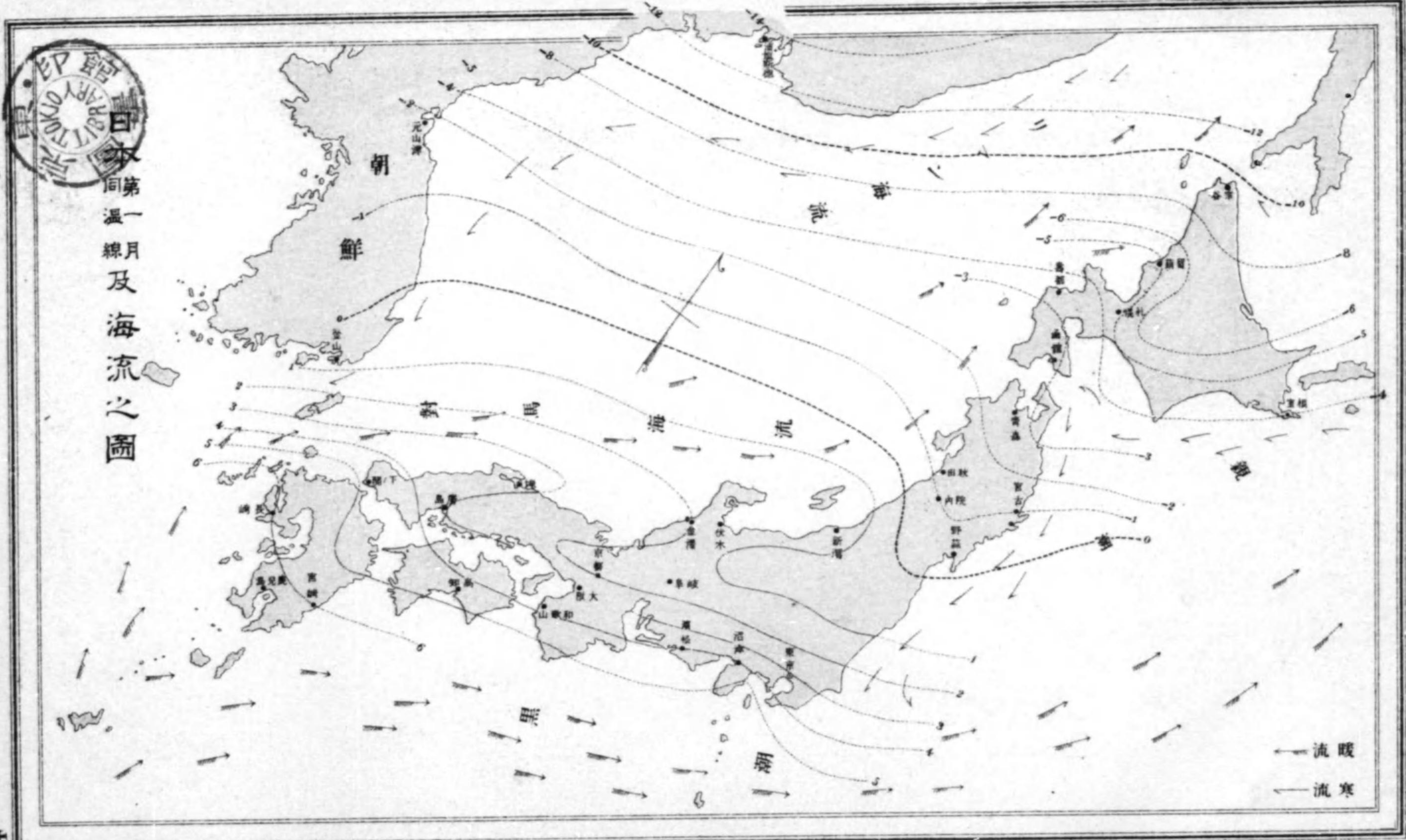
地 / 下以面海
 地 / 下以水十一
 地 / 上以水十一

60 經東 80 100 120

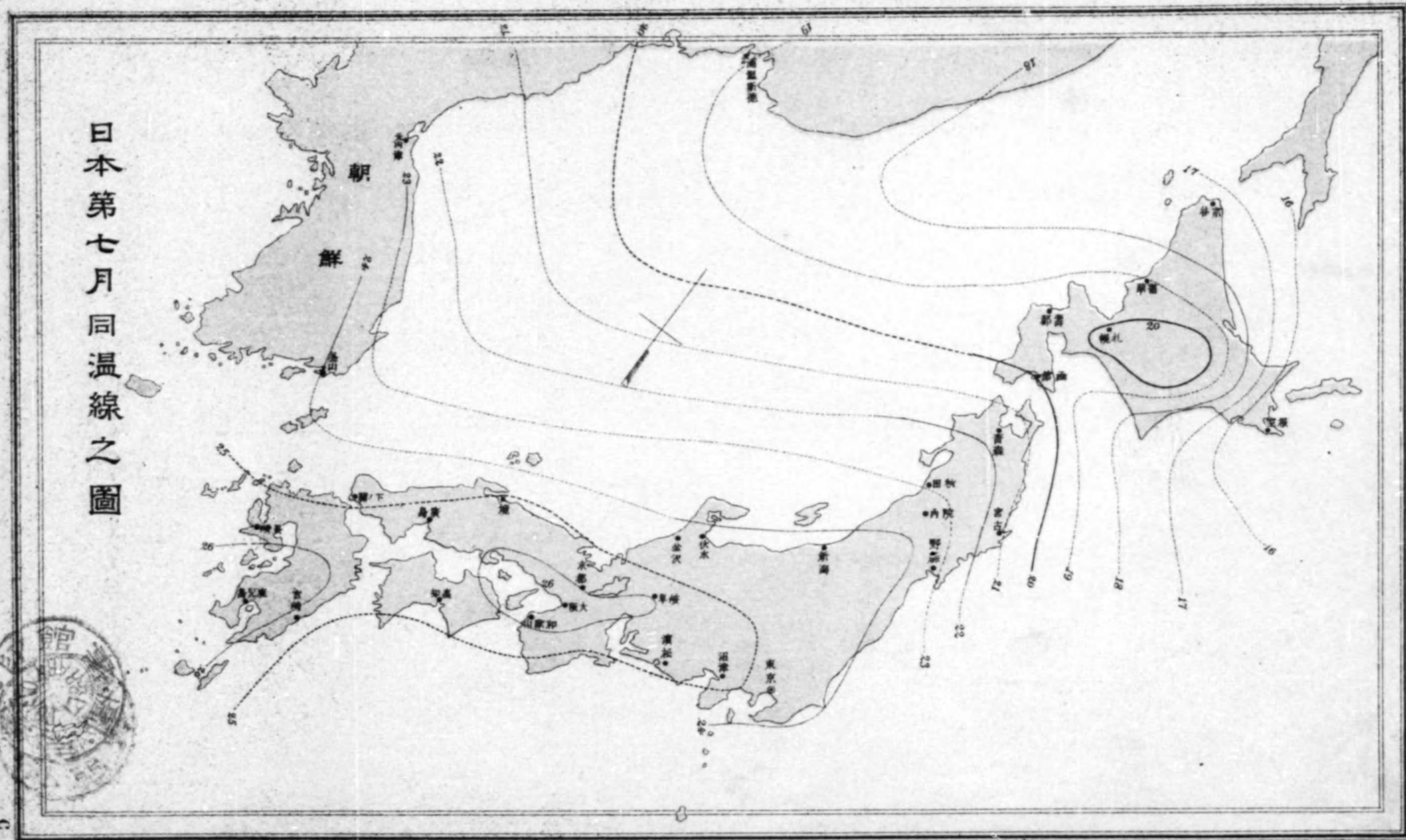


日本山脈及水脈之圖

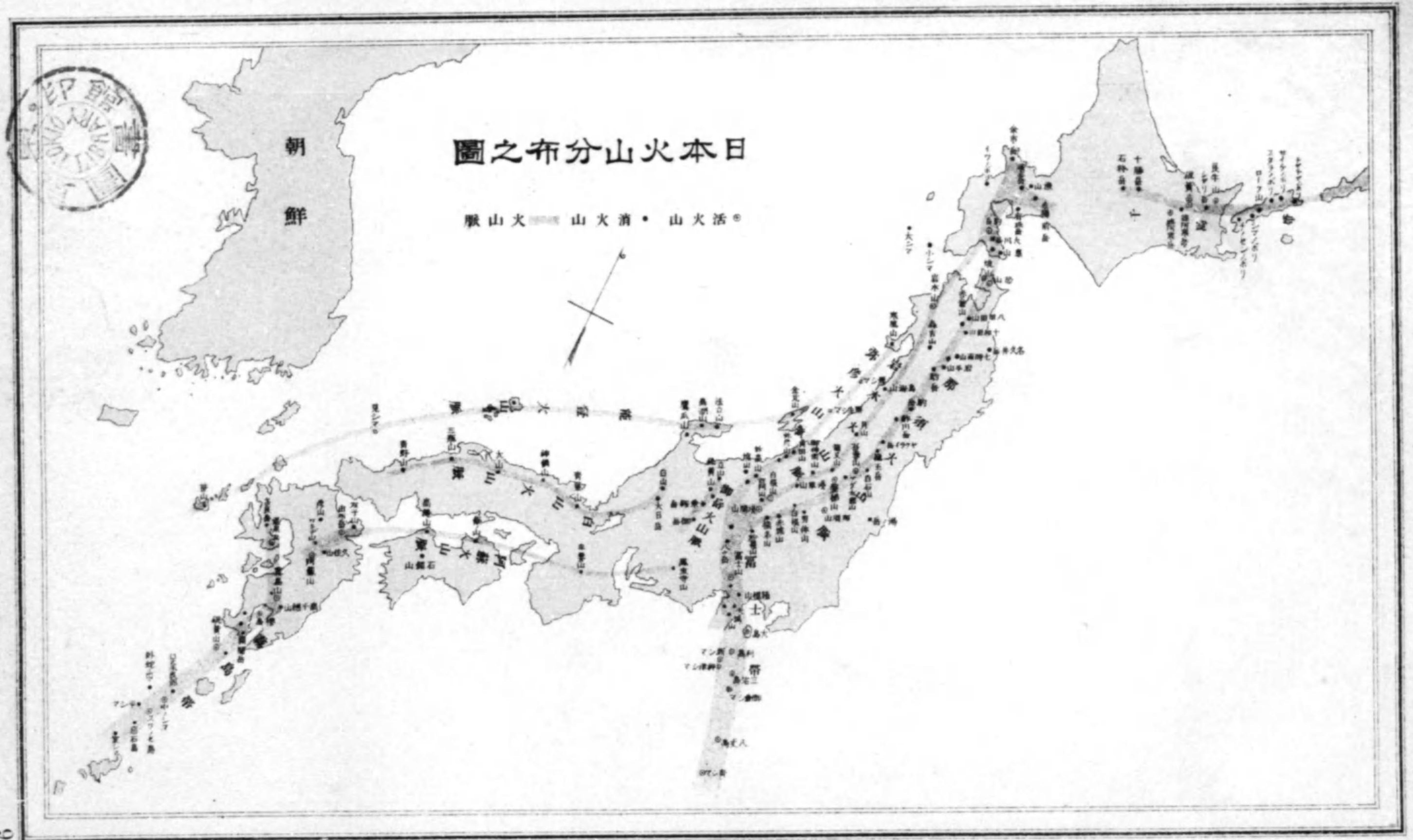




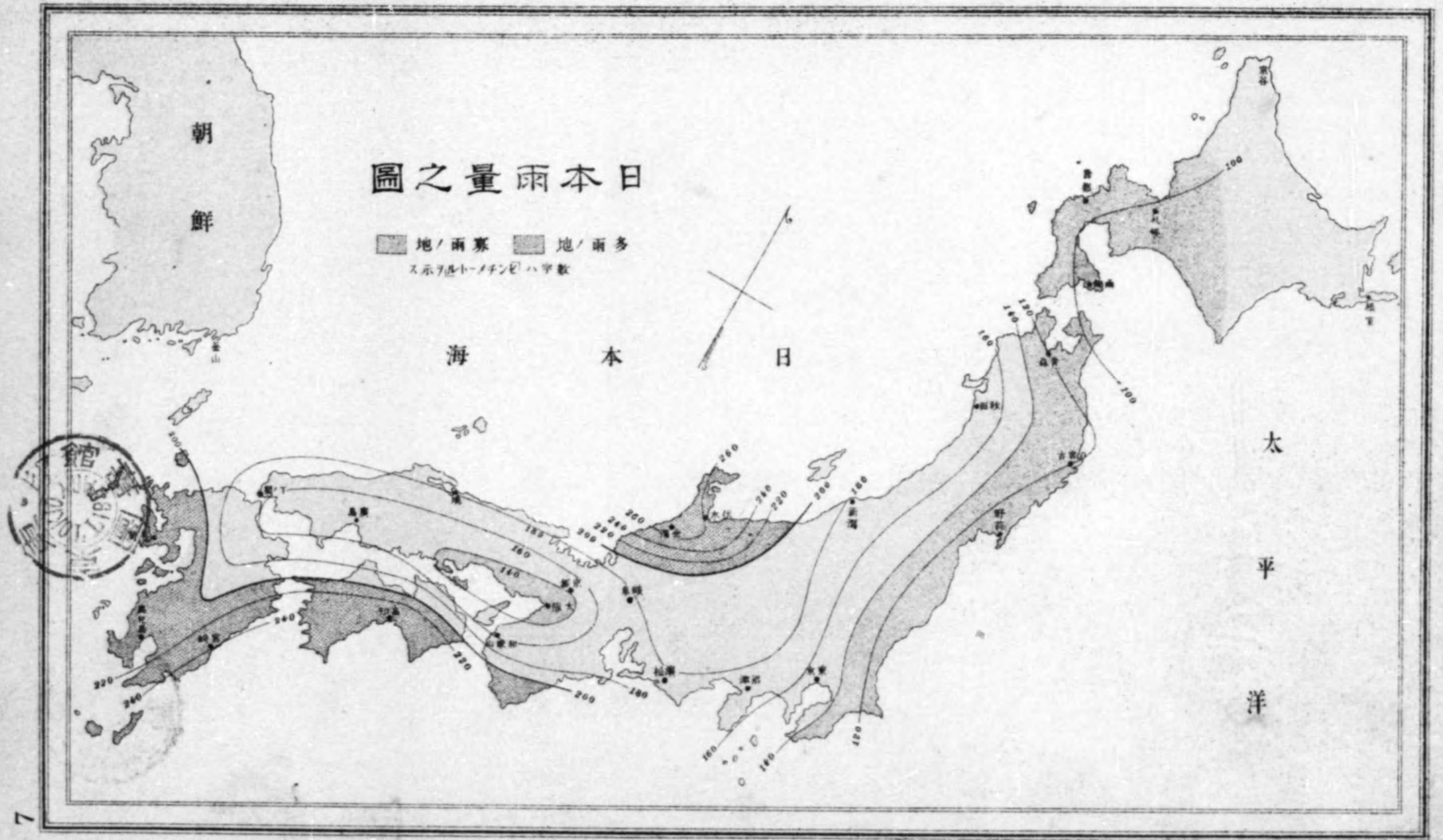
4



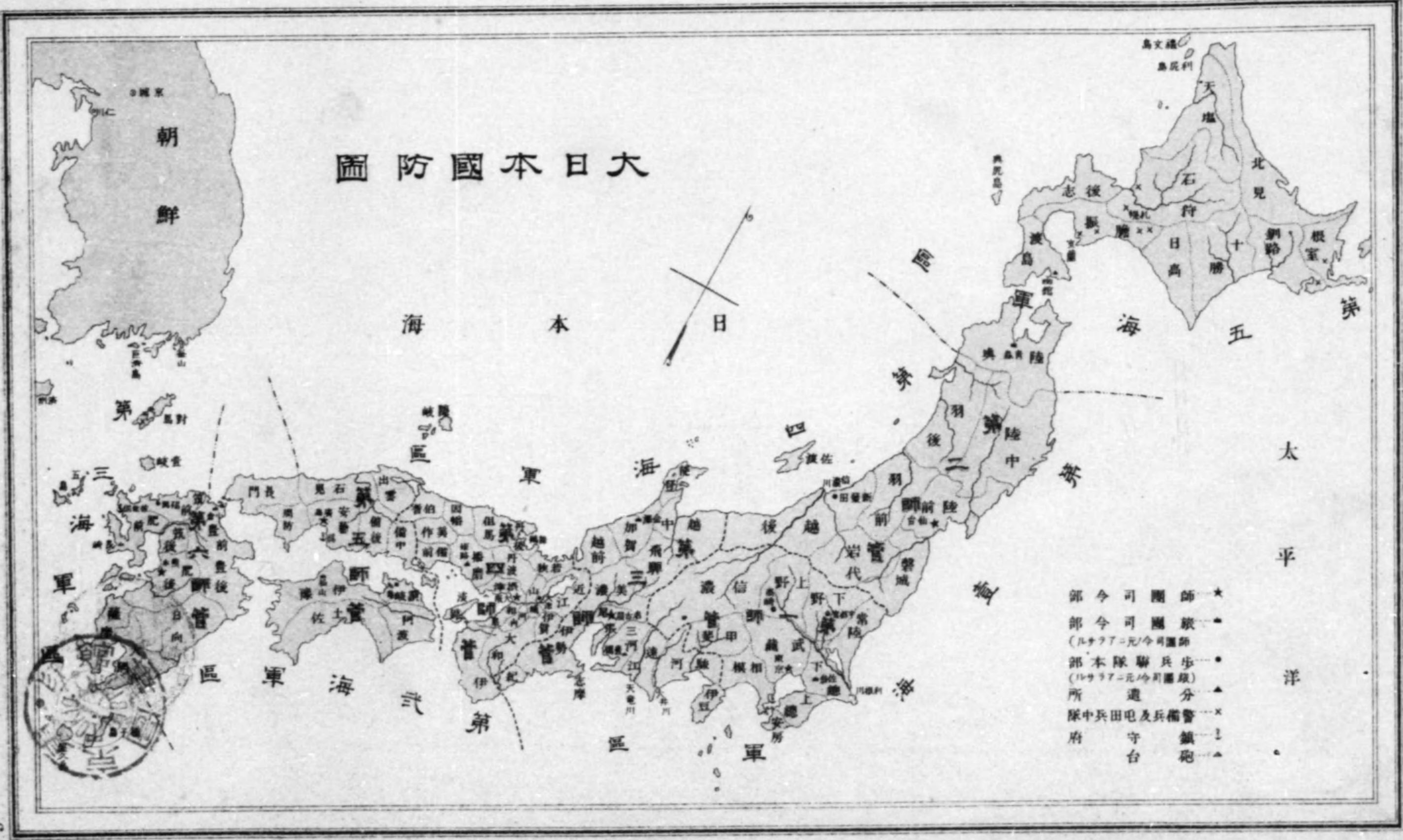
5

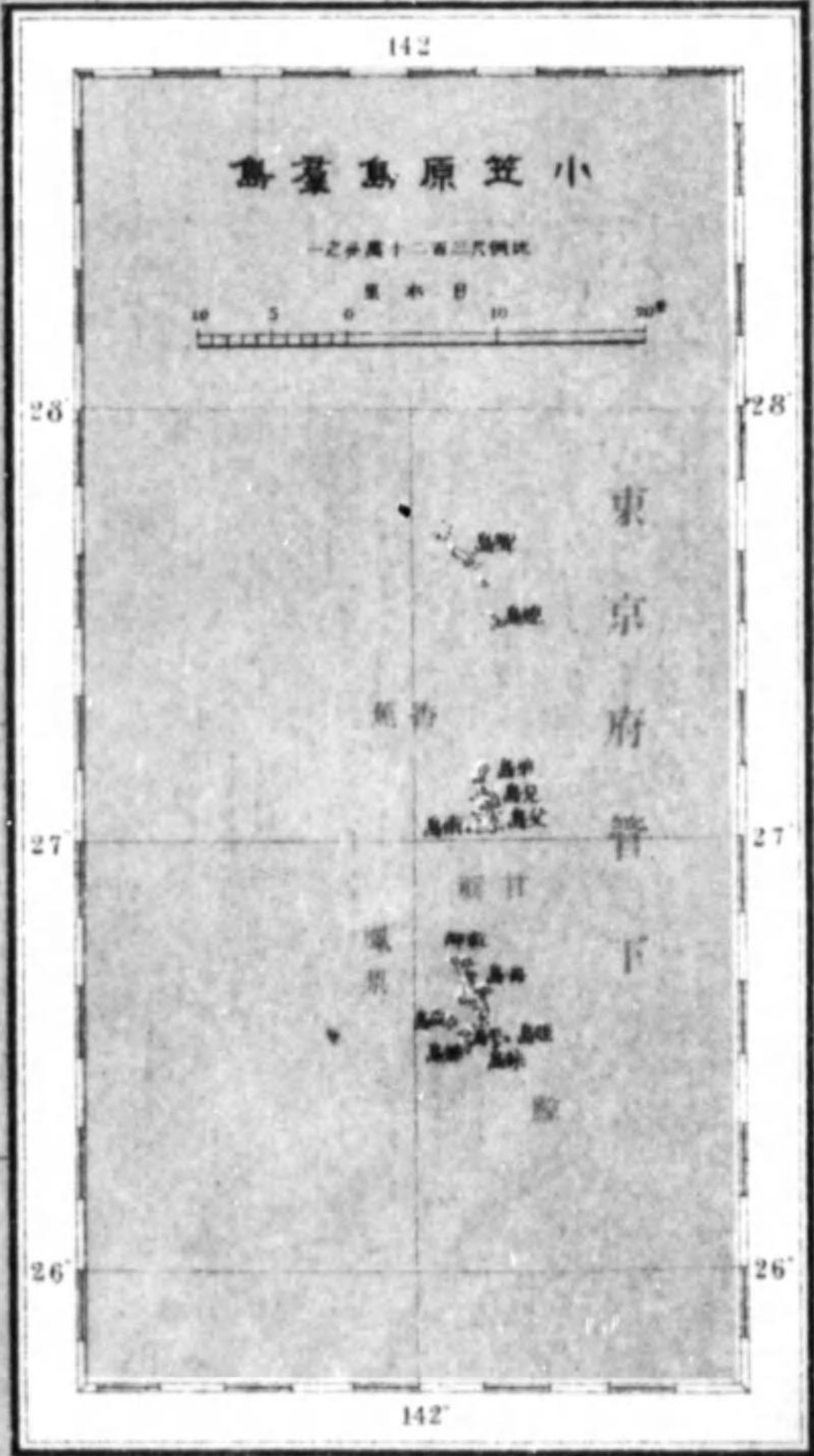
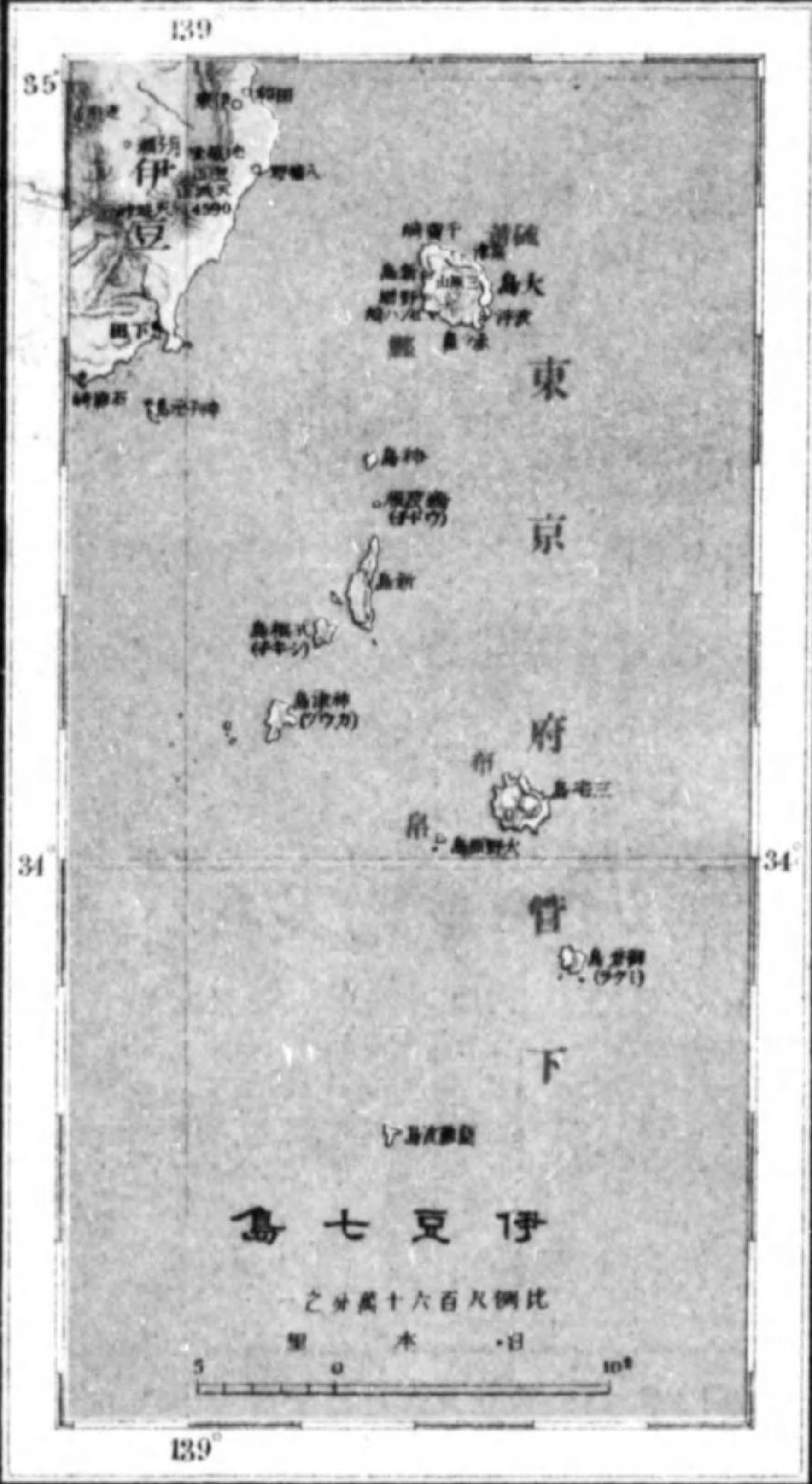
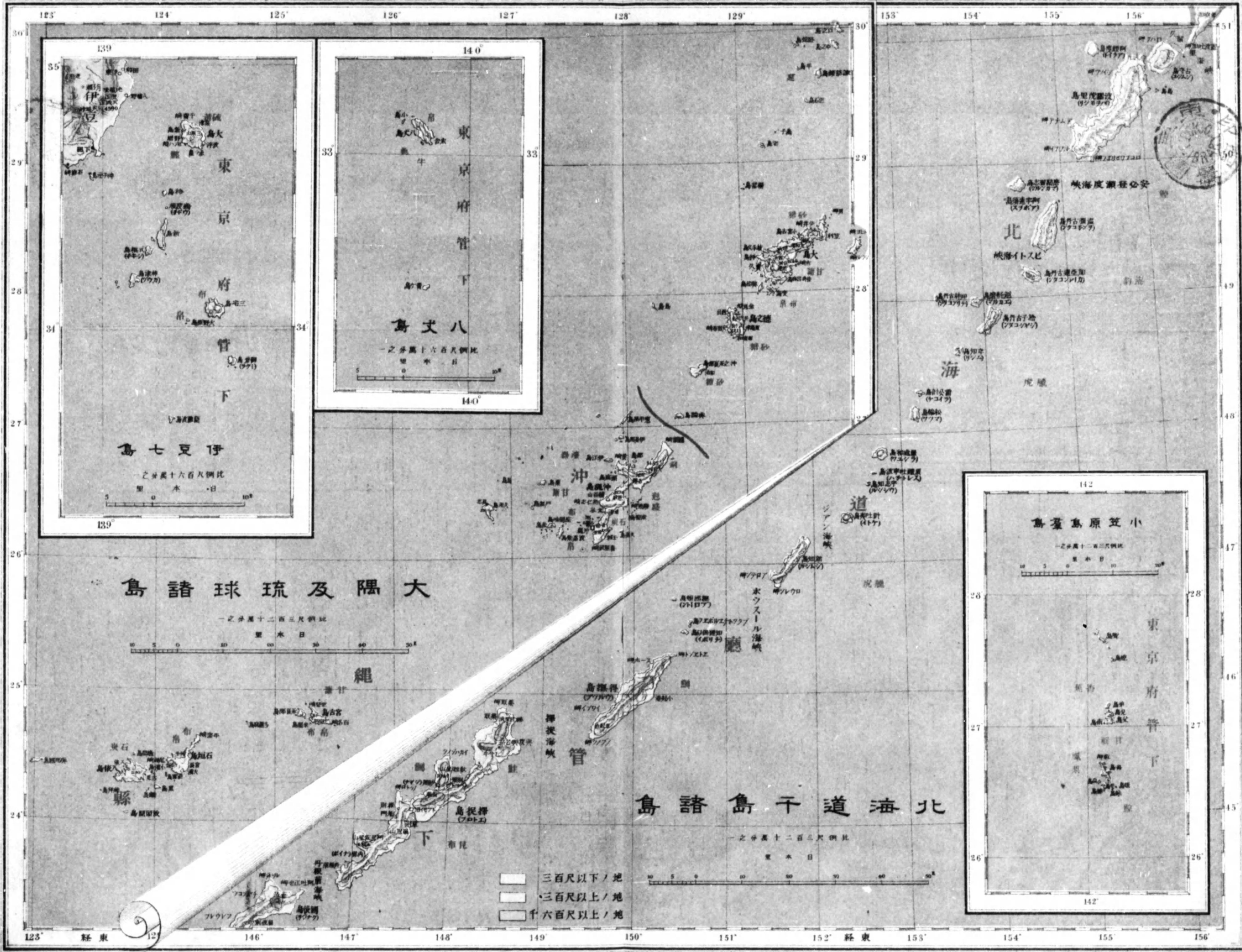


6



7





大隅及琉球諸島

之ノ尺十二百三例比

10 5 0 10 20 30 40 50

北海道諸島

之ノ尺十二百三例比

10 5 0 10 20 30 40 50

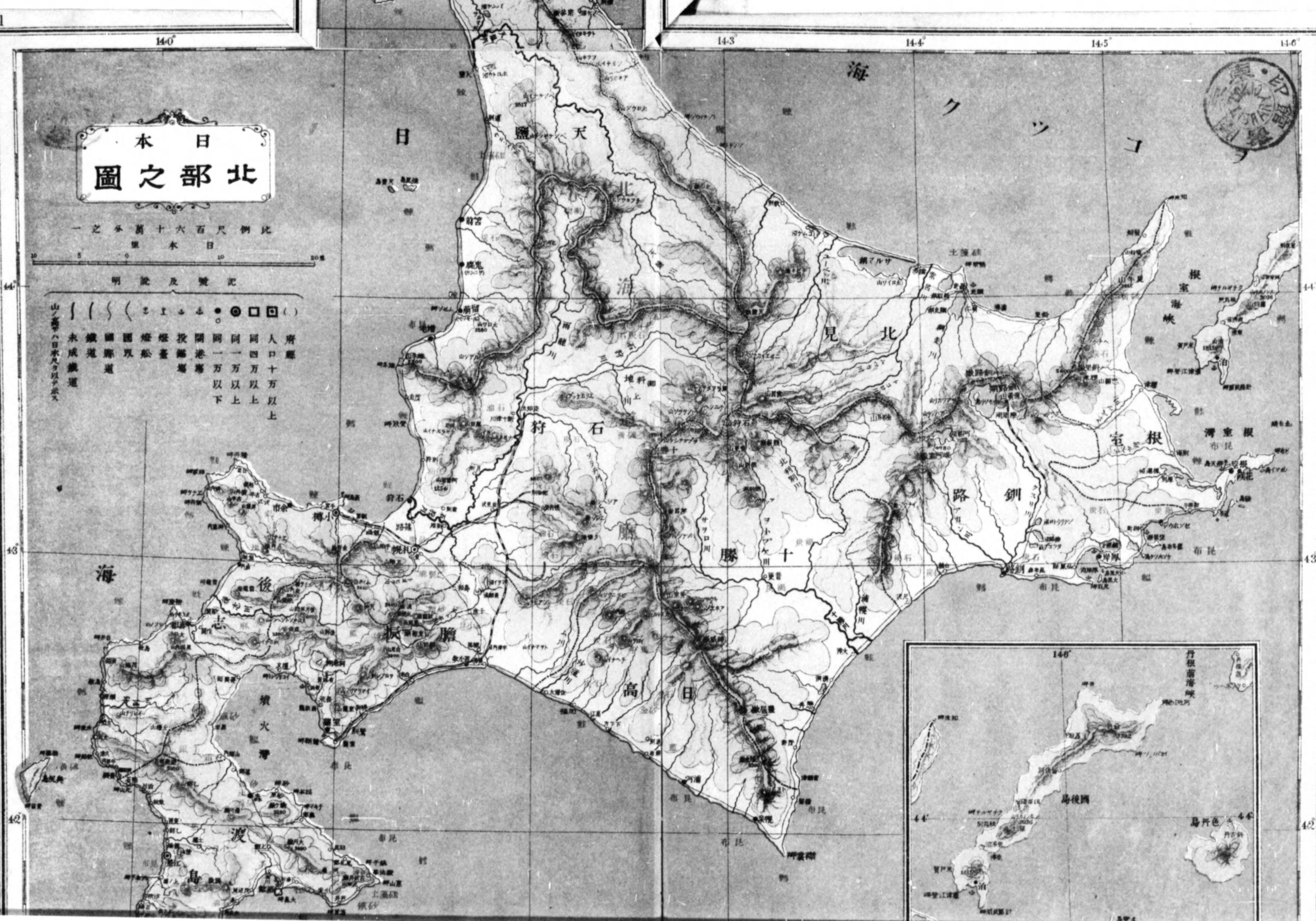
- 三百尺以下ノ地
- 三百尺以上ノ地
- 千六百尺以上ノ地

日本 北部之圖

比例尺 六十六萬分之一
日本本里

記號及說明

- 山ノ高サ八日本尺以下ノ水
- 鐵道
- 國道
- 縣道
- 支線
- 燈臺
- 投擲場
- 開港場
- 同一萬以下
- 同一萬以上
- 同一萬以上
- 人口十萬以上
- 府廳



138 139 140 141 142



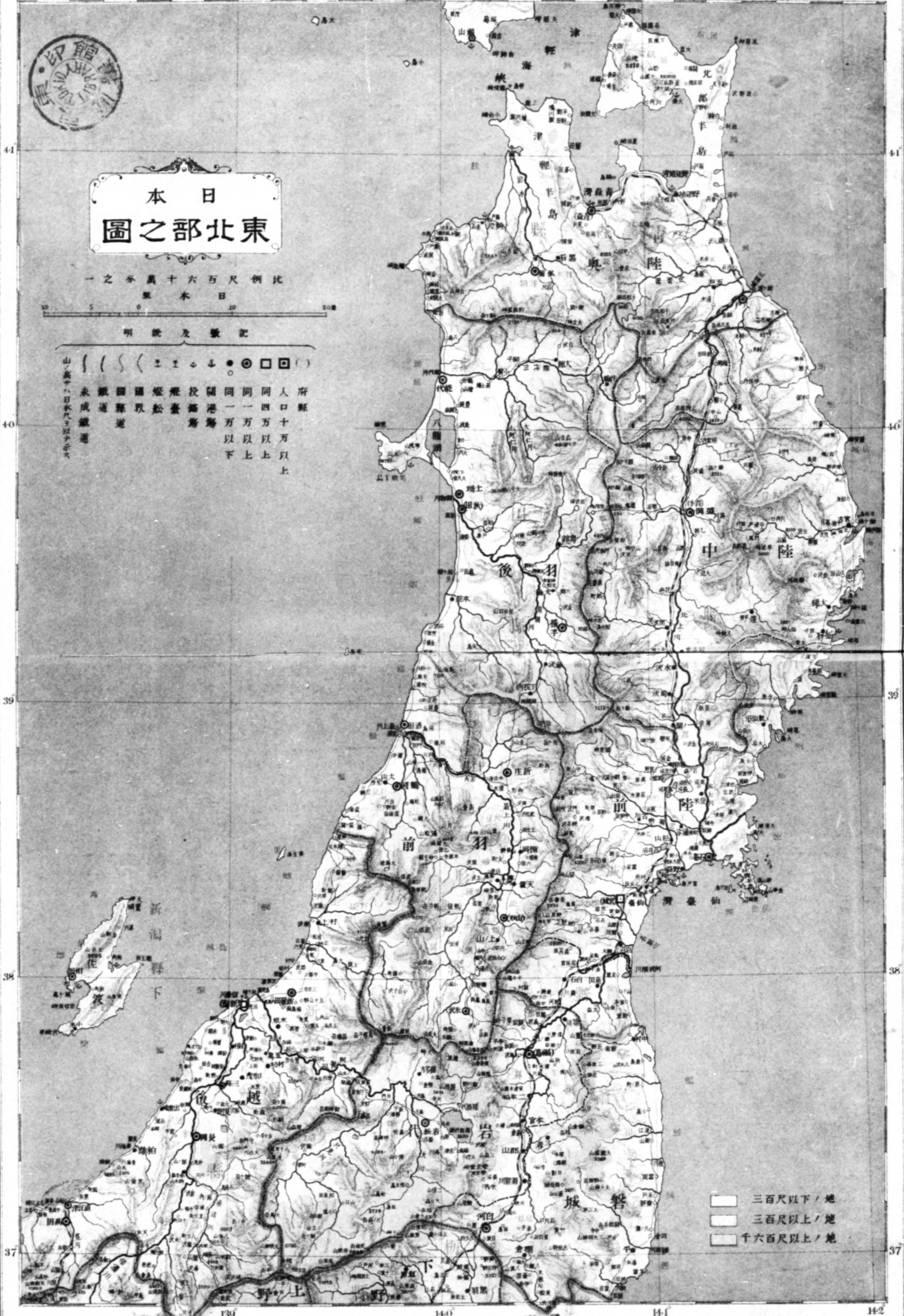
本日 圖之部北東

一之分萬十六百尺例比
里本日

10 5 0 10 20

明說及號記

- | | |
|-----|--------|
| () | 府縣 |
| □ | 人口十萬以上 |
| ○ | 同四萬以上 |
| ● | 同二萬以上 |
| ○ | 同二萬以下 |
| ○ | 開港場 |
| ○ | 投寄場 |
| ○ | 燈臺 |
| ○ | 燈塔 |
| ○ | 國界 |
| ○ | 國界 |
| ○ | 鐵道 |
| ○ | 未成鐵道 |
- 山、高千八百尺以上以少者

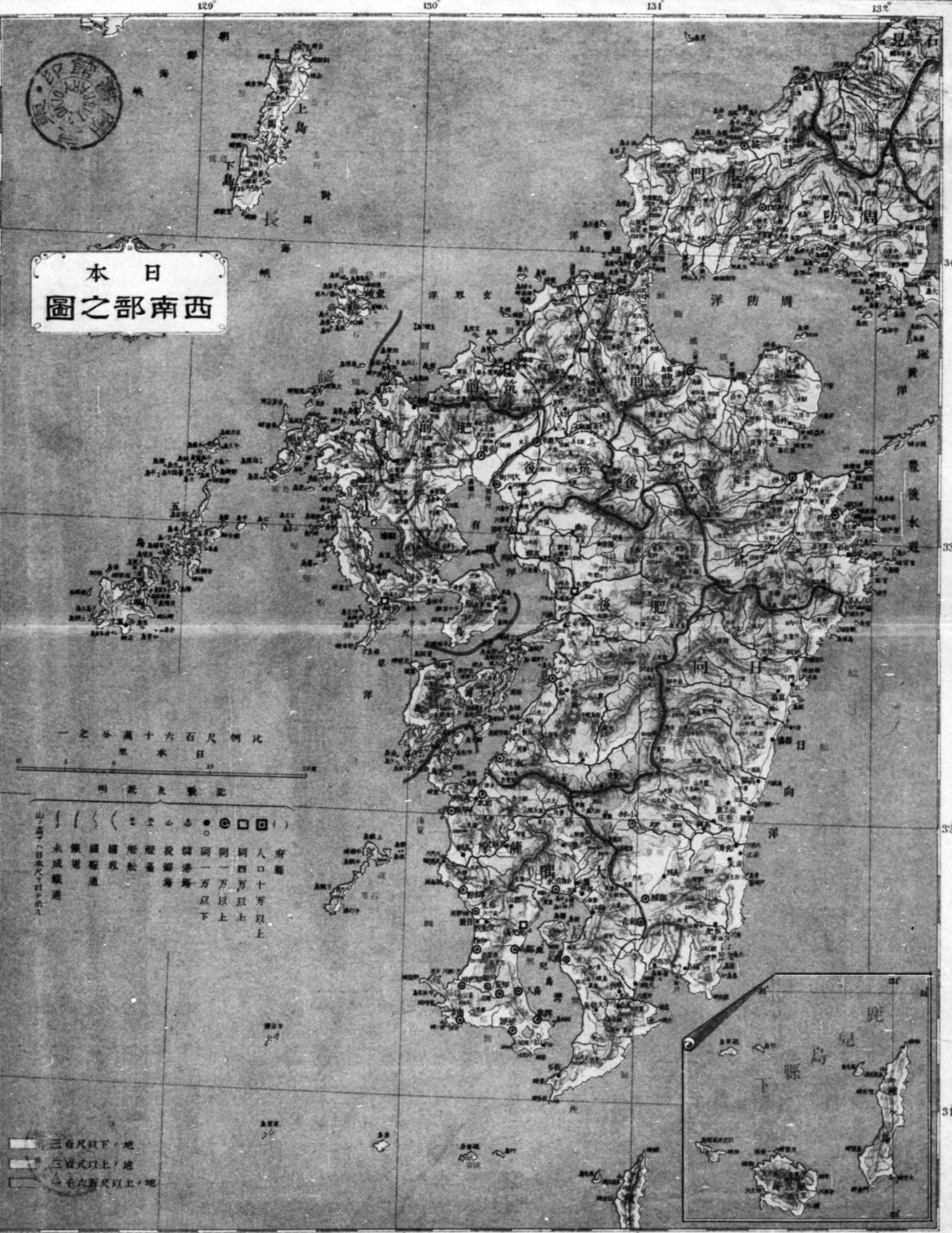


- 三百尺以下 / 地
- 三百尺以上 / 地
- 千六百尺以上 / 地

欠

MISSING

本日
圖之部南西



一之分萬十六百尺例比
圖水日

明說及號記

- 山ノ高ク、日本尺ノ以テ示ス
- 鐵道
- 國道
- 縣道
- 支線
- 投箱場
- 同、一、方、以、下
- 同、一、方、以、上
- 同、四、万、以、上
- 同、十、万、以、上
- 府縣
- 人口十、万、以、上

- 三百尺以下、地
- 三百尺以上、地
- 一千六百尺以上、地



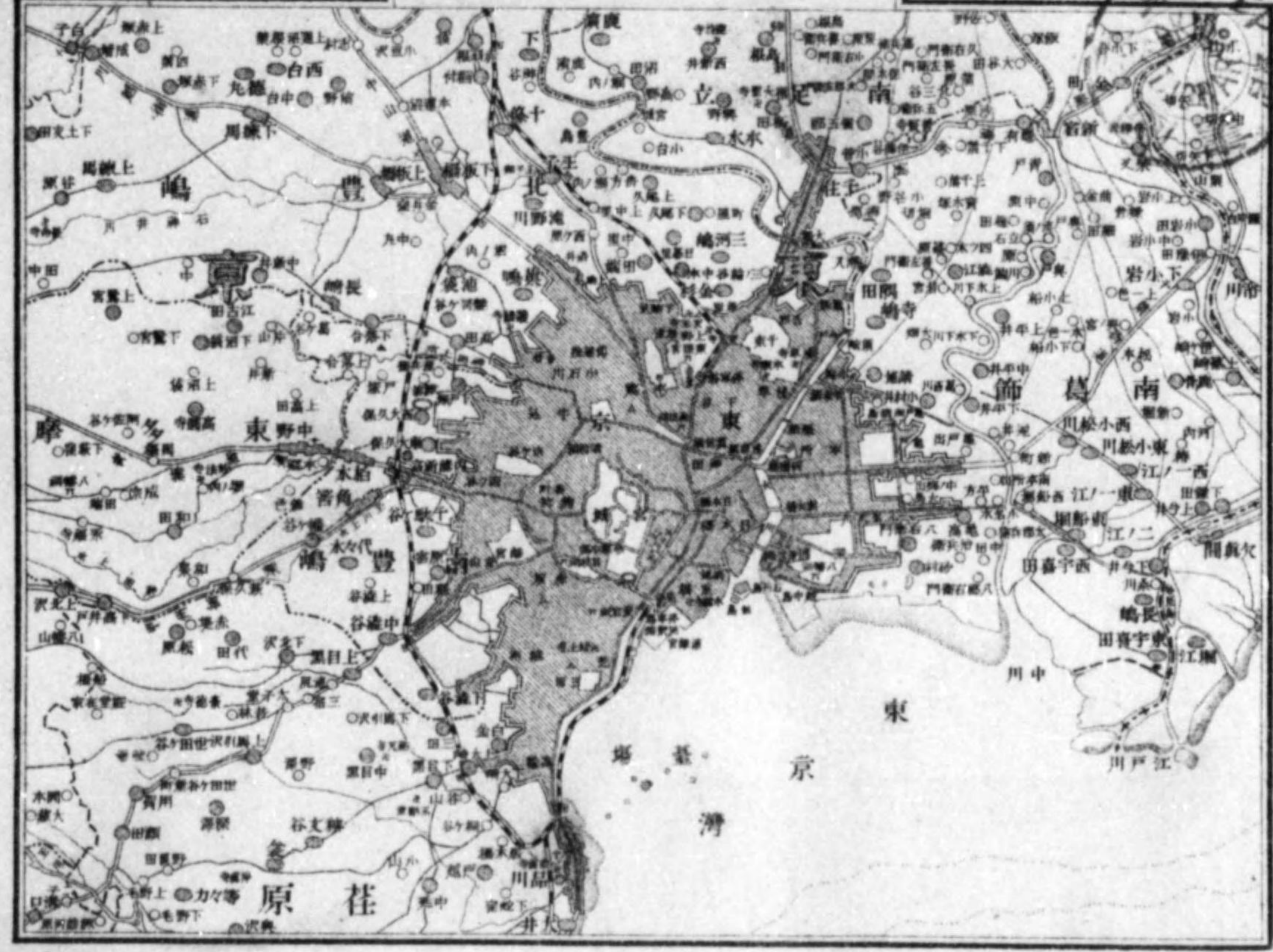
港濱横



港崎長



市京東



港館函



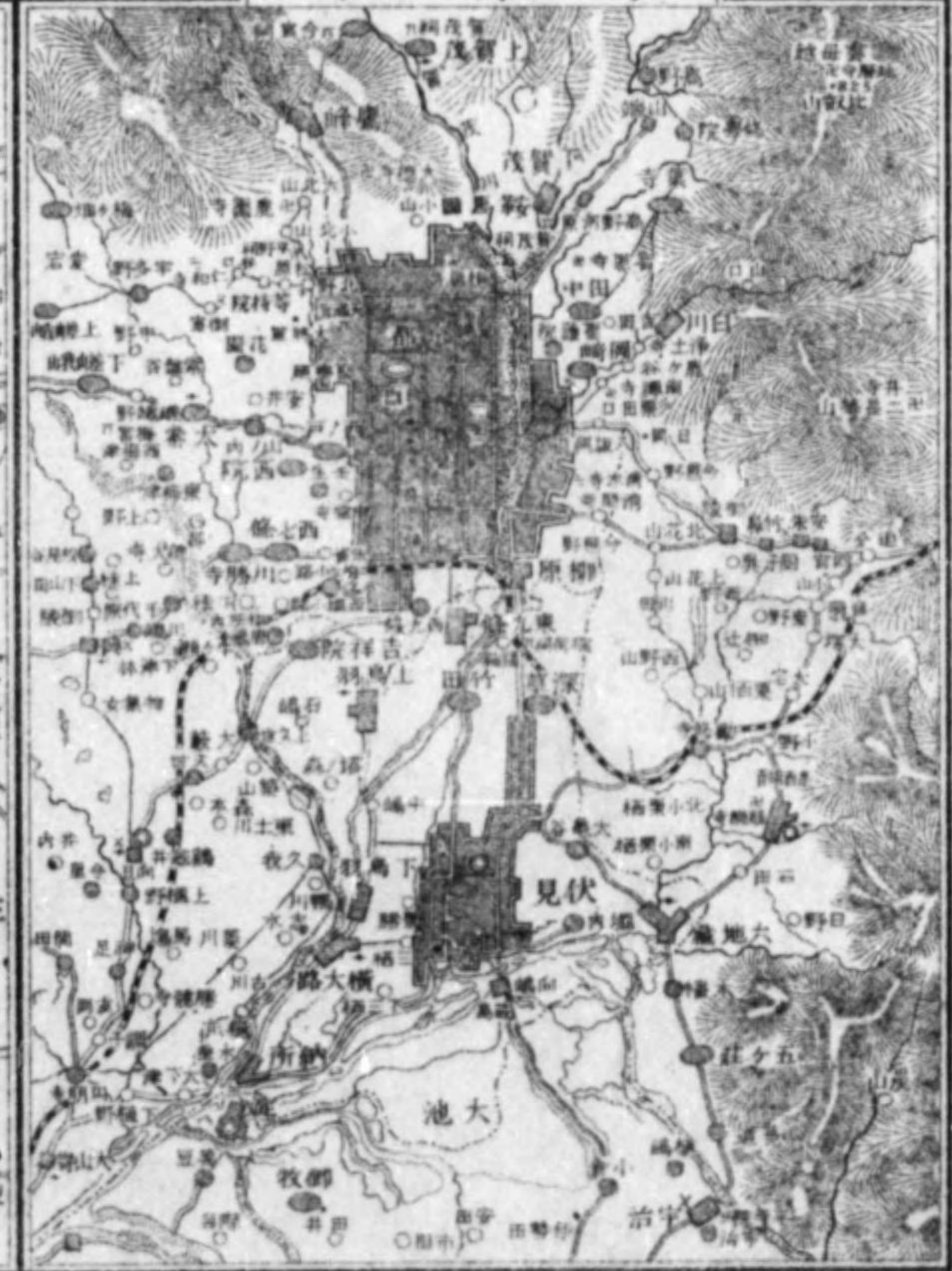
港戸神



市阪大



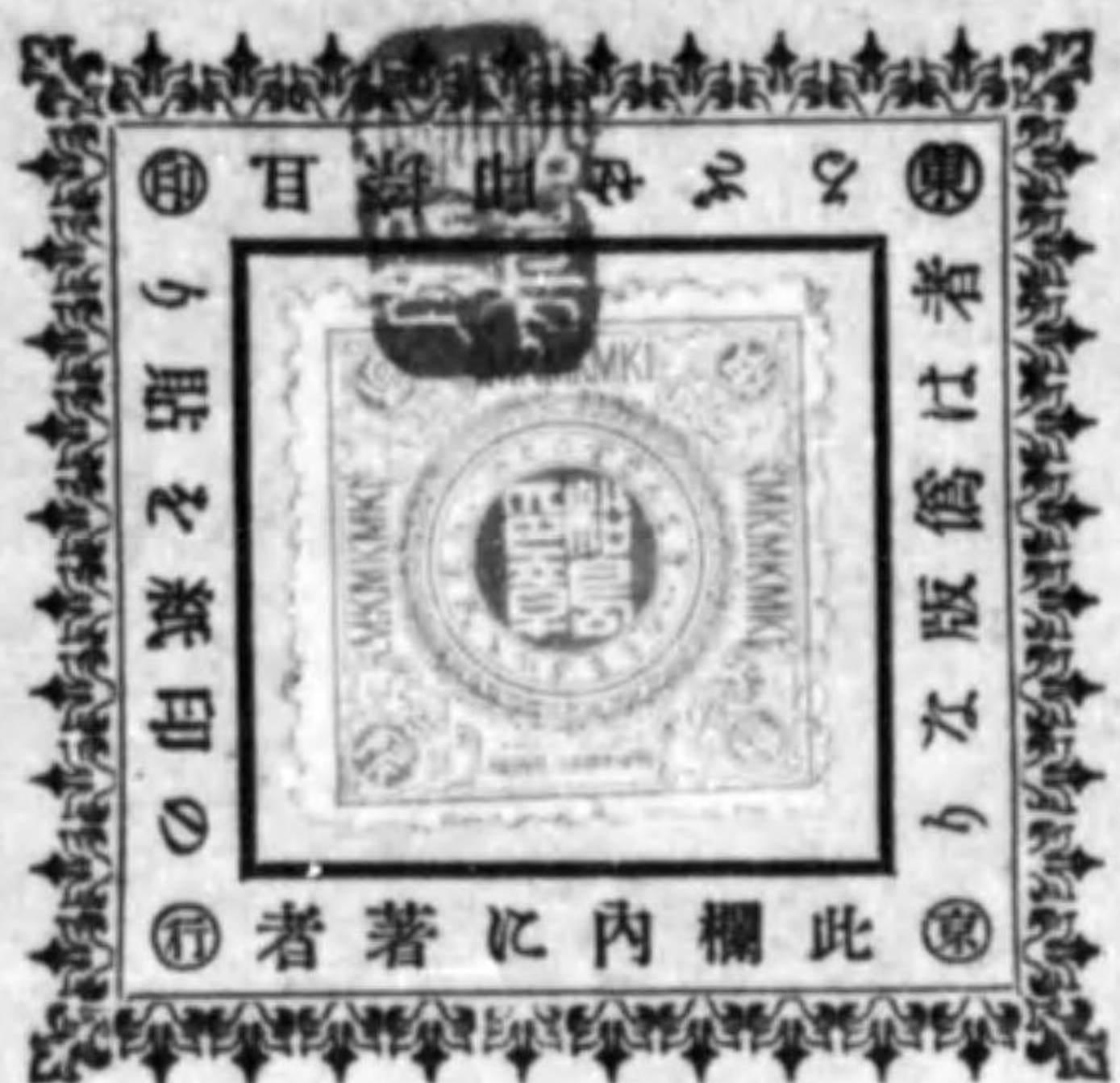
市都京



港灣新



明治廿八年十二月卅日印刷
明治廿八年十二月四日發行



版權所有

新地理學日本之部
實價八十錢

著者 松島剛

東京市赤坂區青山南町三丁目五十三番地

發行者 和田篤太郎

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目廿三番地

印刷者 根岸高光

東京市日本橋區通四丁目五番地

發行所 春陽堂

(電話五十一番)

印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
株式會社 秀英舎第一工場

(電話十九番)

あり、體きものあり、其の木材の此種如何に因つて、沈入の

松島氏著譯圖書目錄

- 社會平權論 版十 合卷一冊 定價金壹圓五十錢
- 心理全書(合) 版二 全四冊 定價金二圓四十錢
- 萬國史要 版十一 合卷一冊 實價金壹圓五十錢
- 教育史(合) 版九 全二冊 定價金壹圓七十五錢
- 日清文明論 版六 合卷一冊 實價金五十錢
- 近世地理學 版四 日本之部一冊 實價金九十八錢
- 近世中地理學 版五 日本之部一冊 實價金九十八錢
- 近世中地理學 版五 外國之部一冊 實價金九十八錢

- 近世地文學 版二 全一冊 實價金六十八錢
- 内外地圖集覽 版四 日本之部一冊 實價金四十五錢
- 同 版四 外國之部一冊 實價金四十五錢
- 小學地圖集覽 版二 日本之部一冊 實價金二十五錢
- 同 版二 外國之部一冊 實價金二十五錢
- 新地理學 版二 日本之部一冊 實價金八十錢
- 同 版二 外國之部一冊 實價金八十錢
- 大日本全圖 版一 學校用掛圖 近刻
- 大日本地圖 版一 學校用掛圖 近刻

- 近世物理學 版二 全二冊 實價金壹圓七十錢
- 近世化學 版一 全一冊 實價金九十錢
- 數學三千題 版一 全二冊 上下實價各金四十錢宛

- 數學五千題 版一 全三冊及解式 上二十五錢、中下二十錢
- 新式算術 版一 全二冊 上卷實價金六十錢、下卷近刻
- 新篇代數學 版一 全二冊 上卷實價金八十錢、下卷近刻

近世地理學批評

地學雜誌の批評 近頃世に公にせられたる近世地理學上卷は府下青山英和學校教授松島剛氏の新著にして本會へも一部を寄送せられたり是が批評は普く適任の士に譲り先づ之を繙くに全卷の頁數四百二十之を地理學總論及び亞細亞洲誌の二編に分列して第一編には數理地學天然地學及び人文地學の三章ありて天然地學に陸地、洋海、溫度、風、雨、雪、生物、及び礦物の分布なる六項あり人文地學に人種、言語、宗教、需用品、生業、社會、交通、政略の八項あり第二編は亞細亞洲總論大日本帝國の二章に別れて日本の位置、幅員、區畫、海岸、灣港、沿海、潮汐、海流、山岳、火山、平野、河湖、鑛泉、地震、氣候、生物の分布ヨリ人文的の人口、族制、食物、家屋、衣服、風俗、衛生、國語、宗教、教育、文事、美術、土地、農産、畜産、林産、水産、鑛産、工産、交通、商業、政事、軍備、及び各區の地方誌に至る迄の細目ありて順を追ひ丁寧なる解説を施し之を助くるに彩色の圖畫二十四葉を加へたれば通讀者をして我日本帝國に關する天然及び人文的の智識を得せしむるに充分の價値あるものとす著者の材料を蒐集するに吝ならず刻苦之に従事したる状態は紙面に亮然たり特に各専門の學科に亘りては之に關係の學者技術者に就て一々校閱訂正を求めたるは讀者の満足する處なるべし此地理書を教課書とするの適否に至りては自から世に公評あるならん斯は兎も角も參考に供すべき材料には寧ろ完備に近きも決して寡少なるの患なかるべし其價九十八錢は實に廉なりと云ふべし

地學雜誌第三十六卷) 時事新報の批評 松島剛氏の著はせる本書は専ら中等教育の教科用書に充てんとて編纂したる者なり最初に地理學總論を置き數理地學、天然地學、人文地學等章を分ちて之を論じ次に亞細亞洲誌の部

に於て先づ冒頭に亞細亞總論を掲げ夫より日本帝國の風土氣候人種族制等に關して大體を論じ纏て局部の地方誌に及びたり順序整然として立ち最も教科書たるに適せり而して著者の序言に據れば續いて外國地理をも編纂するよし序でながら一言せんと欲するは從來我國に行はるゝ外國地理書の類は概ね皆翻譯的の書物にして彼の邦人が讀むに適するも我邦人に適せざるの傾なきにあらざるゆゑ其邊の遺憾なきやう編纂ありたき事にこそ(廿五年二月二十日)

郵便報知新聞批評

表然たる大冊子、釘裝美にして印刷明らかに註疏解義、豈々として皆聽くへし一ト口に言へば乾燥の文字を以て充たし成せる此風の著述讀者を驅て睡魔の迷殺に入らしむるは免かる可らざるの勢なるに耽讀して四百二十頁更に饜く事を知らしめざるは一種言ひ易からざるの妙味此中に籠れるを認めざるを得ず、卷首地理學總論の如き固より其優れたるを獨り此編に求むるにも及はさらむ先づ亞細亞の地理的形狀を總序して次て日本の總論に移り位置、幅員、區畫の指分より更に海岸の形勢、灣港の適否、沿岸の狀態、海流の深淺を詳述し蓋明瞭に愈精嚴に記し到りて説き盡せる處明治以降刊行の地理書多しと雖ども又此書の右に出る者なかるへし其初め著者専ら本邦各地の風俗習慣を調査せんと欲し而して之と密々の關係ある地理講本の更に之を稽考するに便なる者なきを思ひ、慨然自ら筆を授りて此著あるに至りしとの、はし書あり流石、はし書ある丈けに其一放地理學系統に遵依して天然地理を講述するの外深く人文地理の研究に心を用ひ凡て飲食、凡そ衣服、凡そ風俗習慣の微に至る迄逐次意を用ひて仔細に記述せる所の如き殊に本書の價値ある部分として見るべき者、とす中等教育の教科用書として編纂したる事著者の目的なりしならんと雖も讀むて此編の利益に浴する者は獨り此少々の區域に局在せざるべきや勿論なり(廿五年二月五日)

國民新聞批評

近世地理學は松島剛氏著す我が地理學書中の大著又好著也上卷に地理學總論即ち

數理地學天然地學及び人文地學を説き第二編亞細亞洲誌中亞細亞總論及び日本總論日本地方誌を叙述したり就中海流海深山脈地震港灣等の記事の如き植物分布の如き氣象人種衣食住風俗國語工商業交通の如き農産と水産林産商産鑛産の如き何れも敘論精該行文明晰にして極めて實用に近く加ふるに最も精緻なる地圖を挿み復た舊來の乾燥陳腐なる地理學書の比にあらざる也余輩は以て我が既成地理學書中等教育用の最良最好なるものとす

東京朝日新聞批評

地理書の數敢て少しと爲さずと雖も能く其學理に基きて明晰に詳述せるものは稀なり本書は第一編は總論にして數理天然人文の三章に分ち第二編は亞細亞洲誌にして其第一章は亞細亞洲總論第二章は大日本帝國又之を日本總論上下日本地方誌の三款に分ち山海地理氣候の如何より政治交通風俗細微に及ぼして遺す所なく且つ精密なる統計鮮明なる地圖を加へ其記述する所彼の外相的臚列の陳套を襲がず編述の躰裁別に一新機軸を出し一々専門學者の校閱、助力をも得たるよしにて素と無味乾燥なるべき地理書毫も其弊を覺えざるを以て其尋常のものに非ざるを知るべし獨り中等教科用書に恰當なるのみならず一般士人生平の參考に供するを得べし地理書に於ける近來の大著なり

東京新報批評

本書は中等教育の教科用書の爲め編纂せしものにて先づ總論と大日本の部を上編として發兌せり其材料蒐集の爲め氏が五年の星霜を費し天然地理、氣象、動植物、風俗、技藝、國語、物産等の諸項は皆其道に長熟せる各専門家に就て示教を受け序述せしと然れば其記事正確細緻亦以て諸職業の參考と爲すに足る殊に日本地理書にして學理上より講究せしものあらざるを憂へ勉めて之れを講究せしは我國の地理學上に一大進歩を與へたるものなり卷中二十餘幅の圖を挿す皆銅版にして緻密縝巧色彩を施して指示の分界を明らかにす凡そ我國の地理書は天然地理、人文地理孰れか一方に偏し

て兩全なるもの無し此書は斯る精粗の弊なく能く其權衡を保ち記事の繁簡宜しきを得て一讀其要領を得るに便なり全巻を分て二編とし又別て五章とす細目三十八目中數項を含み隘頭に其要目を掲げ索引に便し外國語及び術語等には洋字を傍記し全紙數四百廿餘頁革脊絹裝裝釘業うして且高尙なり實に日本地理書中の巨擘

内地地圖集覽批評

地學雜誌ノ批評

内地地圖集覽二冊

松島

剛著 第四版

此書は松島氏の著書近世地理學近世中地理等に隨伴し若くは獨立に用ゐ得る様に編せしものにして地名の撰擇繁簡其要を得印刷鮮明にして物産の記入しあること比較の爲めに同緯度の地名を所々に掲げあること高低深淺を示すに注意せる等は其特色なり卷末には種々の統計を列舉せり而して其代價は一冊各四十五錢復た廉なりと云ふべし抑々今日に於て學校生徒は勿論の事一般の人士も此の如き地圖を坐右に置き眼中常に我國が世界に於ける位置如何を印せんことを要す此書は第四版に於て特に注意して臺灣及び遼東半島の地圖を日本の部に加へたるを以て膨脹せる日本の状態を知るに宜し一口之れを評せば手頃にして確實なりと云ふべきか併し地理は日々に變化するものなれば改版の度毎に増補訂正を加へ鐵道の延長河渠の開鑿は漏れなく記入し人口面積貿易軍備其他總ての統計は年々最新の調査に據られたきものなり斯の如くして怠らざらば實に今日に於て良書たるのみならず永く松島の地圖として一般人の良友となるに至らん

て兩全なるもの無し此書は斯る精粗の弊なく能く其權衡を保ち記事の繁簡宜しきを得て一讀其要領を得るに便なり全卷を分て二編とし又別て五章とす細目三十八目中數項を含み隘頭に其要目を掲げ索引に便し外國語及び術語等には洋字を傍記し全紙數四百廿餘頁革脊緞裝釘裝うして且高尙なり實に日本地理書中の巨擘

内外地圖集覽批評

地學雜誌ノ批評

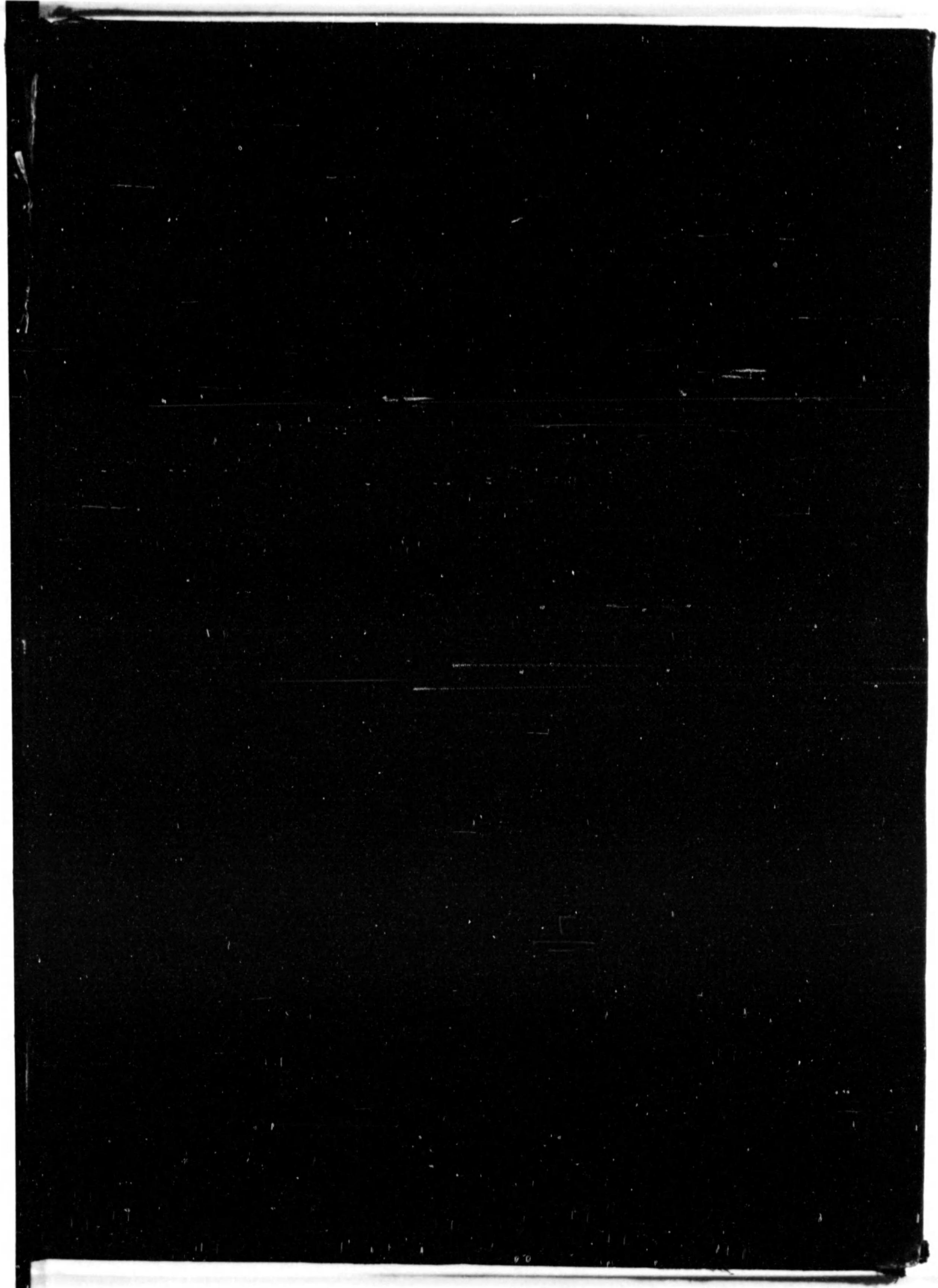
内 地圖集覽二冊

松 島

剛著 第四版

此書は松島氏の著書近世地理學近世中地理等に隨伴し若くは獨立に用ゐ得る様に編せしものにして地名の撰擇繁簡其要を得印刷鮮明にして物産の記入しあること比較の爲めに同緯度の地名を所々に掲げあること高低深淺を示すに注意せる等は其特色なり卷末には種々の統計を列舉せり而して其代價は一冊各四十五錢復た廉なりと云ふべし抑々今日に於て學校生徒は勿論の事一般の人士も此の如き地圖を坐右に置き眼中常に我國が世界に於ける位置如何を印せんことを要す此書は第四版に於て特に注意して臺灣及び遼東半島の地圖を日本の部に加へたるを以て膨脹せる日本の状態を知るに宜し一口之れを評せば手頃にして確實なりと云ふべきか併し地理は日々に變化するものなれば改版の度毎に増補訂正を加へ鐵道の延長河渠の開鑿は漏れなく記入し人口面積貿易軍備其他總ての統計は年々最新の調査に據られたきものなり斯の如くして怠らざらば實に今日に於て良書たるのみならず永く松島の地圖として一般人の良友となるに至らん

83
400



83
400

022015-001-5

83-400

新地理学

松島 剛ノ著

M28

ADA-0293

